

# HP SiteScope

Windows®, Solaris, および Linux オペレーティング・システム用

ソフトウェア・バージョン: 11.20

---

## リリース・ノート

ドキュメント・リリース日: 2012 年 5 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日: 2012 年 5 月 (英語版)



## ご注意

### 保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2005-2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

- Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。
- Intel®, Pentium®, および Intel® Xeon® は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
- iPod は Apple Computer, Inc. の商標です。
- Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。
- Microsoft®, Windows®, Windows NT®, および Windows® XP は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。
- Oracle は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。
- UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

### 謝辞

本製品には、Apache Software Foundation(<http://www.apache.org/>) (英語サイト) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、JDOM Project(<http://www.jdom.org/>) (英語サイト) が開発したソフトウェアが含まれています。

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェア・バージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント・リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェア・リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログイン・ページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポート・サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

本ドキュメントの最終更新日：火曜日、2013年1月29日

## サポート

HP ソフトウェア・サポート・オンライン Web サイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HP のお客様窓口のほか、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧ください。

HP ソフトウェア・オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェア・サポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジ・ドキュメントの検索
- サポート・ケースの登録と強化要求のトラッキング
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア・カスタマとの意見交換
- ソフトウェア・トレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセス・レベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。

[http://support.openview.hp.com/access\\_level.jsp](http://support.openview.hp.com/access_level.jsp)

---

# 目次

リリース・ノート .....	1
目次 .....	5
本リリースの新機能 .....	9
新ムービー .....	9
新しいモニタとソリューション・テンプレート .....	9
モニタの強化 / 変更 .....	10
テンプレートの強化 .....	12
統合の強化 .....	12
プリファレンス .....	13
ツールの強化 .....	13
レポートの強化 .....	14
警告の変更 .....	14
SiteScope オブジェクトの検索とフィルタ処理 .....	14
API の強化 .....	14
パフォーマンスと監視容量の強化 .....	15
SiteScope Failover/High Availability ソリューションの向上 .....	15
SiteScope インストールの変更点 .....	16
サポート対象環境 .....	16
インストール要件 .....	17
システム要件 .....	17
Windows のシステム要件 .....	17
Solaris のシステム要件 .....	19
Linux のシステム要件 .....	19
VMware のシステム要件 .....	20
認定されている構成 .....	23
クライアントのシステム要件 .....	23
HP SiteScope サポート・マトリックス .....	24

---

HP Business Service Management 統合 サポート・マトリックス .....	24
HP Operations Manager( HPOM) 統合 サポート・マトリックス .....	24
共存サポート .....	25
HP Operations Agent サポート・マトリックス .....	26
負荷テストのための HP SiteScope のサポート・マトリックス .....	26
HP Network Node Manager i( NNMi) サポート・マトリックス .....	27
<b>インストールに関する注意事項 .....</b>	<b>28</b>
インストールの前提条件 .....	28
Oracle Enterprise Linux 環境への SiteScope のインストール .....	28
HP Operations Agent が必要とする依存関係のインストール .....	29
CentOS 6.2 環境への SiteScope のインストール .....	30
CentOS 6.2 で実行する HP Cloud Services インスタンスへの SiteScope のインストール .....	30
HPCS に SiteScope をインストールするためのヒント .....	30
HPCS への SiteScope のインストール方法 .....	31
注意事項および制限事項 .....	32
<b>注意事項および制限事項 .....</b>	<b>33</b>
監査ログ .....	33
キャパシティに関する制限事項 .....	33
設定 .....	33
ダッシュボード .....	34
Diagnostics 統合 .....	34
ドキュメント .....	34
グローバル検索と置換 .....	34
インストール - OM 統合 .....	35
インストールとアップグレード .....	35
統合 - BSM .....	38
統合 - EMS .....	41
統合 - OM .....	41
統合 モニタ .....	43
LDAP 認証 .....	43
LoadRunner の統合 .....	43
モニタ・デプロイメント・ウィザード .....	43

モニタ .....	43
多言語サポート .....	47
プリファレンス .....	48
リモート・サーバ .....	49
レポート .....	49
SiteScope API .....	49
SiteScope Failover .....	49
SSH .....	50
システム可用性管理 .....	50
タグ .....	51
テンプレート .....	51
ツール .....	51
<b>強化要求 .....</b>	<b>53</b>
警告 .....	53
API .....	54
監査ログ .....	54
設定 .....	56
ダッシュボード .....	56
ドキュメント .....	57
フィルタ .....	57
インストールとアップグレード .....	57
モニタ .....	57
リモート・サーバ .....	59
レポート .....	60
SiteScope 状況 .....	60
テンプレート .....	60
<b>修正済みの問題 .....</b>	<b>61</b>
警告 .....	61
グローバル検索と置換 .....	61
インストールとアップグレード .....	61
統合 - BSM .....	62
統合 - トポロジ .....	62

統合 - OM .....	62
モニタ .....	62
プリファレンス .....	64
レポート .....	64
セキュリティ .....	65
ツール .....	65
テンプレート .....	65
ユーザ・インタフェース .....	65

---

## 本リリースの新機能

このファイルには、SiteScope 11.20 の次の新機能が含まれています。旧バージョンの SiteScope のリリース・ノートについては、製品 インストール・メディアのルート・ディレクトリを参照してください。

### 新ムービー

次を含む SiteScope 11.20 の新機能の一部については、ガイドとナレーション付きのデモをご覧ください。

- カスタム・モニタを使った作業。カスタム WMI モニタの作成、パッケージ化、デプロイ、および HP Live Network コミュニティとのソリューションの共有など : <http://youtube/bB6NITGdd88>
- カスタム WMI モニタのスクリプト開発 : <http://youtube/Glw3JVnunWE>
- LDAP での SiteScope ユーザの集中管理 : <http://www.youtube.com/watch?v=rntljPOqdJs&feature=plcp>
- SiteScope と NNMi の統合 : <http://www.youtube.com/watch?v=jwnzpjK0c1A&feature=plcp>

その他の SiteScope ムービーも、YouTube の HP Videos チャンネルで見ることができます (<http://www.youtube.com/user/HewlettPackardVideos>)。

### 新しいモニタとソリューション・テンプレート

- カスタム・モニタは、インフラストラクチャ・システムおよびアプリケーションの可用性とパフォーマンスの追跡するための標準の SiteScope モニタの機能を拡大します。カスタム・モニタ(カスタム、カスタム・データベース、カスタム・ログ・ファイル、カスタム WMI)を使用すると、所定の SiteScope モニタでサポートされない環境用に独自のソリューションを作成できます。カスタム・モニタを HP Live Network の SiteScope コミュニティに公開すると、他のユーザとカスタム・モニタを共有できます。
- **ダイナミック・ディスク・スペース・モニタ** :一度モニタを設定すれば、あとは自動的にディスクやファイル・システムの変更を検出できるようになります。このモニタは、廃止されたディスク領域モニタに代わるモニタです。
- **VMware データストア・モニタ** :このモニタを使用して、VMware データストアおよび仮想ディスクの状態(接続、容量、空き容量、スナップショット・サイズ)を監視します。このモニタは、VMware キヤノパシティ管理ソリューション・テンプレートのコンテナにも追加されています。
- **KVM 仮想化モニタ** :このモニタを使用して、仮想化の拡張機能を持つ Linux x86 および x86\_64 ハードウェアで Kernal ベースの仮想マシン(KVM)を監視します。
- **汎用ハイパーバイザ・モニタ** :このモニタを使用して、Virsh ツール(ゲストとハイパーバイザを管理するためのコマンドライン・インタフェース・ツール)を使用する仮想マシンを監視します。このモニタでは、ホストで実行されるノードとゲストの仮想マシンに関する詳細情報を収集します。
- **Syslog モニタ** :このモニタを使用して、UNIX/Linux リモート・サーバの Syslog プロセスおよびメッセージを監視します。

- **メモリキャッシュ統計 モニタ** :メモリキャッシュは高性能の分散メモリ・オブジェクト・キャッシュ・システムで、データベースの負荷を軽減することでダイナミック Web アプリケーションを高速化させる場合に使用します。このモニタでは、リモート stats 要求に対するメモリキャッシュ・サーバの応答を確認し、成功した stats 要求への応答で返される値を保存します。
- **HAProxy モニタ** :HAProxy は、TCP/HTTP ベースのアプリケーションの高可用性、負荷分散、プロキシを実現するために使用するソリューションです。このモニタを使用して、フロントエンド/バックエンドの統計情報を提供し、HAProxy サーバが正しく動作していることを確認します。
- **ライセンス状況 モニタ** :このモニタを使用すると、ローカルの SiteScope インストールの SiteScope ライセンス・ポイントの可用性および使用状況を確認できます。
- **Oracle データベース・ソリューション・テンプレート** :Oracle データベース 11g のサポートが Oracle データベース・ソリューション・テンプレートに追加されました。(QCCR1158573)

## モニタの強化 / 変更

- **Amazon Web Services モニタ** :測定値の取得または保存に使用する Amazon EC2 領域のサポートが追加されました。
- **Citrix モニタ** :Citrix XenApp 6.0 で実行される Citrix モニタのサポートが追加されました。
- **DB2 8.x/9.x モニタ** :バージョン 9.7.5 以前の DB2 9.x サーバで実行される DB2 8.x および 9.x のモニタのサポートが追加されました。
- **統合モニタ** :汎用統合モニタ(テクノロジー・データベース、ログ・ファイル、SNMPトラップ、Web サービス)は BSM 9.1x 以前のバージョンでのみサポートされます。
- **JMX モニタ** :
  - JBoss 6.1 および 7.0, WebLogic 11g( 10.3.5), Tomcat 6.0.33 および 7.0.25, Sun Glassfish Enterprise Server 2.1 および 3.1 のサポートが追加されました。
  - JMX モニタに算術カウンタが追加されました。このカウンタにより、線形(一次)ベースのメトリクスの増減率を評価できます。コンスタントに増加していてステータスしきい値を定義するのが困難なメトリクスの場合、このカウンタが便利です。たとえば、「要求の失敗回数」メトリックを見て要求の失敗率を確認するのに、算術カウンタを使用する場合があります。
- **Microsoft Windows イベント・ログ・モニタ** :WMI 経由での Microsoft Windows イベント・ログ・モニタのサポートが追加されました。
- **Oracle 10g アプリケーション・サーバ・モニタ** :Oracle 10g R3 サーバを監視する Oracle 10g アプリケーション・サーバ・モニタのサポートが追加されました。
- **SAP Java Web アプリケーション・サーバ・モニタ** :
  - SSLトランスポート経由での P4 監視のサポートが追加されました。
  - SAP Java Web アプリケーション・サーバ・モニタは新しいカスタム・モニタのセキュリティ設定と互換性がなく、標準設定では利用できません。カスタム・モニタを使用しない場合にこのモニタを有効にする方法の詳細については、「**注意事項および制限事項**」の項にある「[QCCR1167130](#)」(46ページ)を参照してください。
- **サービス・モニタ** : `_serviceMonitorOptByServiceName=true` プロパティを <SiteScope のルート・ディレクトリ>\groups\master.config ファイルに追加することで、サービス・モニタの実行時間を短縮できるようになりました。そのため、モニタで監視用に選択されたサービスのデータのみを取得で

き、リモート・マシンからすべてのサービスを取得して選択されたサービスをソートする必要がなくなりました。

- **SNMP アップグレード** : 次のモニタに、SNMP v3 および AES 暗号化のサポートが追加され、さまざまなモニタの設定が更新され、IPv6 アドレスのサポートが追加されました。**Cisco Works モニタ**, **F5 Big-IP モニタ**, **ネットワーク帯域幅モニタ**, **SNMP モニタ**, **SNMP トラップ・モニタ**, **MIB による SNMP モニタ**。
- **SunONE Web サーバ・モニタ** : iPlanet 7.0 サーバで実行される SunONE Web サーバ・モニタのサポートが追加されました。
- **UNIX リソース・モニタ** : 次のプラットフォームで実行される UNIX リソース・モニタのサポートが追加されました。Solaris 10u8-11, Red Hat Linux 5.8/6.0/6.1, HP-UX 11i v3, および AIX 7.0。
- Ubuntu および CentOS オペレーティング・システムが、UNIX リモート・サーバの正式なサポート対象 OS として追加されました。
- **VMware モニタ** :
  - VMware パフォーマンスおよび VMware ホストのモニタおよびテンプレートを設定する場合の、事前定義された資格情報の選択がサポートされるようになりました。
  - VMware vCenter Server 5.0 および VMware ESXi 5.0 で実行される VMware データストア・モニタ, VMware ホスト・モニタ, および VMware パフォーマンス・モニタのサポートが追加されました。
  - **ダイナミック・モニタリング・メカニズム** : 更新メカニズムの実行後に VMware ホスト・サーバから削除されたカウンタを保持し、モニタで引き続きそれらのカウンタを表示できるようになりました。(QCCR1153407)
- **WebSphere アプリケーション・サーバ・モニタ** :
  - WebSphere 8.0x サーバを監視する WebSphere アプリケーション・サーバ・モニタのサポートが追加されました。
  - WebSphere アプリケーション・サーバ・モニタに、設定を確認して設定結果を表示するトラブルシューティング・ツールが追加されました。
- **WebSphere MQ の状態モニタ** : WebSphere MQ Server 7.0.1.3 で実行される WebSphere MQ 状態モニタのサポートが追加されました。
- **WebSphere パフォーマンス・サーブレット・モニタ** : WebSphere 7.0.0.19, 7.0.0.21, 8.0, 8.0.0.1, および 8.0.0.2 サーバを監視する WebSphere パフォーマンス・サーブレット・モニタのサポートが追加されました。

## テンプレートの強化

- テンプレートでモニタおよびグループの依存関係を設定する際に、ツリー構造を再作成するのではなくツリーの既存モニタへの完全パスまたは相対パスを提供できる機能を追加しました。これによってユーザが手動で操作しなくても、テンプレートがグループやモニタをツリーの正しい位置に自動的に書き込んだり、依存関係をいくつでも自動的に作成したりできるようになります。(QCCR1136535)
- モニタの依存関係がテンプレート変更適用ウィザードでサポートされるようになりました(これまで、変更を公開すると、モニタとグループの依存関係がテンプレートから削除されてしまい、手動で再度追加する必要がありました)。
- デプロイ済みのモニタおよびグループに公開する必要のない依存関係の変更の公開を無視するオプションが追加されました。(QCCR1142189)

## 統合の強化

### Amazon CloudWatch 統合 :

- 測定値の取得または保存に使用する Amazon EC2 領域のサポートが追加されました。

### 汎用イベント統合 :

- HTTP 経由でサードパーティ製のアプリケーションまたは管理コンソールにイベントを XML 形式で転送する場合に使用できます。送信されたイベントには、イベントをトリガした状態の変更など、モニタとその測定値に関する情報が含まれています。
- SiteScope で収集されるイベントを CDA(Continuous Delivery Automation) と統合できます。CDA はポリシーベースのプラットフォームで、混合クラウド環境でのインフラストラクチャ・プロビジョニングを提供します。この統合では、標準設定の HP CDA イベント・マッピング・テンプレートを 사용합니다。CDA では SiteScope からイベントを受け取り、受け取ったイベントに基づいて監視状態を CDA ユーザ・インターフェースで表示します。

### ALM/PAL:

- アプリケーション・ライフサイクル管理 (ALM : Application Lifecycle Management) とパフォーマンス・アプリケーション・ライフサイクル (PAL : Performance Application Lifecycle) の統合が強化され、SiteScope の測定値、テンプレート、およびアプリケーション・トポロジを CMDB から Performance Center にエクスポートして試作テストを実行できるようになりました。

### HP Operations Manager 統合 :

- SiteScope でサポートされた HP Operations Agent がアップグレードされました。詳細については、「HP Operations Agent サポート・マトリックス」(26ページ)を参照してください。
- HP SiteScope と HP Operations Manager (HPOM) の統合が新たに追加され、SiteScope のテンプレートと HPOM のポリシーの関連付けが可能になりました。この統合により、実績ある HPOM ポリシーの実施能力と、SiteScope テンプレートの柔軟性および使いやすさが引き出されます (SiteScope 11.12 で追加されました)。

統合には、次の利点があります。

- 複数の SiteScope インスタンスにまたがるテンプレートの中央管理により、テンプレートの非同期化やテンプレートの手動同期を気にかける必要がなくなります。
- テンプレートのバージョン・コントロール(ロールバック機能を含む)。
- グループ・ポリシーの割り当てに基づくテンプレートの自動的で確実なデプロイメント(要求ステート・ハンドリング)。
- テンプレート・デプロイメントのスケジュールされた公開。
- ファイアウォール設定の削減と既存の HP Operations Agent を活用した HPOM 管理サーバ接続。
- 単一管理コンソールからの SiteScope と HP Operations Agent の統合管理。

HPOM を使用する SiteScope テンプレートの管理の詳細については、SiteScope ヘルプのホームページまたは HP ソフトウェア・サポート製品マニュアル・サイトから利用可能な『Deploying SiteScope Configuration with HPOM Guide』を参照してください。

## プリファレンス

- [SNMP トラップ プリファレンスを受け取る] パネルが[SNMP プリファレンス] ページに追加され、V3 プロパティを持つ SNMP トラップをリッスンして受け取ることのできる SNMP トラップ受信者を定義できるようになりました。
- [高可用性プリファレンス] パネルが追加されました。詳細については、「SiteScope Failover/High Availability ソリューションの向上」(15ページ)を参照してください。

権限：

- 「モニタを編集または削除」と「警告を編集または削除」権限が[ユーザ管理プリファレンス]に追加され、新しいモニタと警告を作成できないユーザに、モニタと警告を変更する権限を付与できるようになりました。
- 既存の「<オブジェクト>を編集」権限の名前が、「<オブジェクト>を追加、編集、または削除」に変わりました。
- 「サーバ中心のレポートを作成」権限が追加され、ユーザにサーバ中心のレポートを作成する権限を付与できるようになりました。

## ツールの強化

- SiteScope ログ・グラバ・ユーティリティが SiteScope ツールに追加されました([ツール]コンテキスト > [共通ユーティリティ ツール] > [ログ グラバ ツール])。このツールを使用すると、SiteScope のログ・ファイルと設定ファイルを収集して保存できます。
- リンク・チェック・モニタ・ツールのサポートが[ツール]コンテキスト([ツール] > [Web ツール] > [リンク 確認 ツール])に追加され、リンク・チェック・モニタを設定する場合にツールをダッシュボードから使用できるようになりました。

## レポートの強化

- モニタ・レポート、警告レポート、サーバ中心レポートが更新され、ユーザ・インターフェースが簡素化され、外観が改善されました。
- 選択されたオブジェクトをターゲットとする親グループからの警告を含む、すべての警告が警告レポートに含まれるようになりました。(QCCR1155656)
- サーバ中心レポートをモニタ、グループ、または SiteScope ルートのショートカット・メニューから生成できるようになりました。
- **タグ**が、モニタ・レポートを作成する場合の利用可能な列のリストに追加されました。タグは優先度に応じたモニタのソートに使用できます。(QCCR1145252)

## 警告の変更

ページまたは SMS アクション・タイプを使用する警告を作成するオプションは利用できなくなりました。次のバージョンの SiteScope ではページおよび SMS 警告 アクション・タイプのサポートが削除されます。後方互換のために、<SiteScope のルート・ディレクトリ>\groups\master.config ファイルに `enableDeprecatedAlertActions=` プロパティを追加することで、これらの警告 アクション・タイプを有効にすることができます。可能な値は次のとおりです。sms, pager, または両方のアクション・タイプを有効にする sms,pager(これらの値に大文字/小文字の区別はありません)。(QCCR1166555)

## SiteScope オブジェクトの検索とフィルタ処理

- クイック検索が追加され、モニタ、リモート・サーバ、テンプレート、およびカウンタ・ツリーの設定オブジェクトをフィルタできるようになりました。大文字と小文字の区別、ワイルドカード、一致オプション、ノード/子オプションでフィルタできます。
- また、自動フィルタも用意されており、これを選択した場合、検索語を入力すると自動的に検索が実行されます。検索を実行するたびに Enter キーを押す必要はありません。

## API の強化

新しい API が追加され、テンプレート変更の公開、ルートのない状態でデプロイされたテンプレートの更新(新しい変数を持つ単一のモニタのみを更新)、所定のパスに既存のテンプレートがある場合の、テンプレートのインポートおよび上書き、SSH キー・ファイルの SiteScope へのインポート、デプロイメントの詳細を返す単一テンプレートのデプロイ、タグの作成、タグ値の追加、タグ値およびタグの詳細(名前、詳細)の編集、タグの削除などが可能になりました。

## パフォーマンスと監視容量の強化

新しいアプレット・メカニズムと管理対象キャッシュを使用することで、アプレットのダウンロード・パフォーマンスが向上しました。新しいキャッシュにより、アプレットをいったんダウンロードすれば、それを再利用して(同じバージョンの)異なる SiteScope サーバにアクセスできるようになりました。これにより、初回起動時間が短縮され、新しい進捗バーにダウンロードの進捗が表示されるようになりました。

Windows クライアントの場合、新しい管理対象キャッシュは次の場所にあります。

`%tmp%\com.hp.acm.swing.container.cache`

## SiteScope Failover/High Availability ソリューションの向上

- SiteScope Failover(自動ミラー化)ソリューションは、SiteScope 11.00 で導入された SiteScope Failover Manager(共有ドライブ・アーキテクチャ)ソリューションに代わるものとして再実装されました。Failover Manager はこのリリースではサポートされますが、将来サポートを停止する可能性があります。Failover Manager ソリューションを使用している場合は、SiteScope Failover ソリューションへの移行の検討をお勧めします。
- 強化された SiteScope Failover ソリューションには、次の利点と変更があります。
  - インストールと設定は簡単で、別のハードウェア(SiteScope の設定データを格納するためのネットワーク・ドライブ)は必要ありません。
  - ATOMIC ミラー化の操作。ミラー化の操作が完了する前に、ネットワークやシステムの障害により中断した場合は、自動的にロールバックされます。
  - ミラー化の操作が速くなります。
  - ミラー化の操作を事前定義のスケジュールに基づいて行うことができます。
  - SiteScope Failover のユーザ・インタフェースを使用して設定を実行できます。
  - SiteScope のアクティブなフェイルオーバー・マシンで日次ログ・ファイルと \*.dyn ファイルが変更された場合、SiteScope のプライマリ・マシンがアクティブになった時点で、そのマシンに自動的に逆同期されます。
  - SiteScope のフェイルオーバー・マシンでは、LW-SSO 認証方法が必要になりました。

詳細については、『HP SiteScope Failover Guide』を参照してください。

## SiteScope インストールの変更点

- SiteScope は、プラットフォームのサポートに応じて 32 ビットまたは 64 ビットのアプリケーションとして実行できます。標準のインストール・プログラム( **HPSiteScope\_11.20\_setup.exe** または **HPSiteScope\_11.20\_setup.bin** )を使用する場合、32 ビットのオペレーティング・システムでは 32 ビットのアプリケーション、64 ビットのオペレーティング・システムでは 64 ビットのアプリケーションとして SiteScope が自動的にインストールされます。
- Windows の場合、一部のモニタが SiteScope 64 ビット・バージョンでサポートされていないため、**HPSiteScope32on64\_11.20\_setup.exe** を実行すれば、32 ビット・バージョンの SiteScope を 64 ビットのプラットフォームにインストールできます。

## サポート対象環境

- Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard Edition のサポートが追加されました。
- CentOS 6.2 と、CentOS 6.2 オペレーティング・システムで実行される HP Cloud Services インスタンスのサポートが追加されました。
- Solaris プラットフォームでの SiteScope の実行は現在は廃止されています。次のリリースでは Solaris インストーラを含める予定はありません。
- Red Hat ES/AS Linux 4.x プラットフォームでの SiteScope の実行はサポートされなくなりました。

---

# インストール要件

## システム要件

本項では、サポートされているオペレーティング・システム別に、SiteScope を実行するための最小システム要件と推奨事項を示します。

本項の内容

- 「Windows のシステム要件」(17ページ)
- 「Solaris のシステム要件」(19ページ)
- 「Linux のシステム要件」(19ページ)
- 「VMware のシステム要件」(20ページ)
- 「認定されている構成」(23ページ)
- 「クライアントのシステム要件」(23ページ)

注: Solaris プラットフォームでの SiteScope の実行は現在は廃止されています。次のリリースでは Solaris インストーラを含める予定はありません。

## Windows のシステム要件

コンピュータ およびプロ セッサ	800 MHz 以上
------------------------	------------

オペレーティング・システム	<p><b>32 ビットのサポート :</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Windows 2003 SP2 Standard/Enterprise Edition</li><li>• Microsoft Windows Server 2003 R2 SP2 Enterprise Edition</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 SP1/SP2 Standard/Enterprise Edition</li><li>• Windows Server 2008 R2 でホストされた Microsoft Windows Server 2008 SP2 Standard/Enterprise Edition Hyper-V ゲスト ( 32 または 64 ビット )</li></ul> <p><b>64 ビットのサポート :</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Windows Server 2003 SP2 Standard/Enterprise Edition</li><li>• Microsoft Windows Server 2003 R2 SP2 Enterprise Edition</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 SP1/SP2 Enterprise Edition</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1 Standard/Enterprise/Datacenter Edition without Hyper-V</li><li>• Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise Edition with Hyper-V Enabled</li><li>• Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise Edition でホストされた Microsoft Windows Server 2008 R2 Hyper-V ゲスト ( 64 ビット )</li><li>• Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise Edition でホストされた Microsoft Windows Server 2008 SP2 Standard/Enterprise Edition Hyper-V ゲスト ( 64 ビット )</li></ul>
メモリ	1 GB 以上 ( 2 GB 以上を推奨 )
ハード・ディスクの空き容量	2 GB 以上 ( 10 GB 以上を推奨 )

## Solaris のシステム要件

注: Solaris プラットフォームでの SiteScope の実行は現在は廃止されています。次のリリースでは Solaris インストーラを含める予定はありません。

コンピュータおよびプロセッサ	Sun 400 MHz UltraSparc II プロセッサ以上
オペレーティング・システム	<ul style="list-style-type: none"><li>• Solaris 9( 32 ビット, 最新の推奨パッチ・クラスタを使用)</li><li>• Solaris 10( 32 または 64 ビット, 最新の推奨パッチ・クラスタを使用)</li></ul>
メモリ	1 GB 以上 (2 GB 以上を推奨)
ハード・ディスクの空き容量	2 GB 以上 (10 GB 以上を推奨)

## Linux のシステム要件

コンピュータおよびプロセッサ	800 MHz 以上
----------------	------------

オペレーティング・システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Oracle Enterprise Linux 6.0, 6.1(64ビット) 注：環境を手動で設定してから SiteScope をインストールする必要があります。詳細については、「Oracle Enterprise Linux 環境への SiteScope のインストール」(28ページ)を参照してください。</li> <li>• Red Hat ES/AS Linux 5.2, 5.4(32ビット)</li> <li>• Red Hat ES/AS Linux 5.5, 5.6(32 または 64 ビット)</li> <li>• Red Hat ES Linux 6.0, 6.2(64ビット)</li> <li>• CentOS 6.2(64ビット)</li> </ul> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Red Hat Linux 6.0 サーバを手動で設定してから HP Operations Agent をインストールする必要があります。詳細については、「HP Operations Agent が必要とする依存関係のインストール」(29ページ)を参照してください。</li> <li>• CentOS 6.2 サーバを手動で設定してから SiteScope をインストールする必要があります。詳細については、「CentOS 6.2 環境への SiteScope のインストール」(30ページ)を参照してください。</li> <li>• NPTL(Native POSIX Threading Library) 搭載の Red Hat Linux 9 は、サポートされません。</li> <li>• Red Hat Linux 環境で実行する SiteScope サーバまたはリモート・サーバ上での CPU およびメモリの使用率を監視できるようにするには、<b>sysstat</b> パッケージを SiteScope サーバおよび監視中のすべてのリモート・サーバにインストールする必要があります(同梱されていない)。</li> <li>• SiteScope が Red Hat Linux にインストールされると、SiteScope サーバの状況モニタには SwapIns/sec, SwapOuts/sec, PageIns/sec および PageOuts/sec カウンタに対する sar -W コマンドと sar -B コマンドの有効な出力が必要です。これらのコマンドが動作しない場合はエラーが表示されず、これらのカウンタが <b>n/a</b> として表示されます。これらのコマンドを実行できるようにするには、1日に一度実行するコマンド "/usr/local/lib/sa/sadc -" を追加して crontab を編集します。</li> </ul>
メモリ	1 GB 以上(2 GB 以上を推奨)
ハード・ディスクの空き容量	2 GB 以上(10 GB 以上を推奨)

## VMware のシステム要件

SiteScope では、下記のテスト済みの設定に従って、次の VMware 環境がサポートされています。

サポート対象環境 とテスト済み環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>VMware ESX 3.0</li> <li>VMware VirtualCenter 3.0</li> <li>vSphere 4.1, 5.0</li> </ul>
サポート対象環境 のみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>VMware VirtualCenter 2.x</li> <li>VMware ESX 2.5 via VirtualCenter 2.x</li> <li>VMware ESX 3.x, 4.0, 4.1</li> <li>VMware ESX 3.x via VirtualCenter 3.x</li> <li>VMware ESXi 4.0, 4.1, 5.0, 5.1</li> <li>VMware vCenter Server 4.0, 4.1, 5.0, 5.1</li> <li>vSphere 5.1</li> </ul>
テスト済みの VMware 設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つの物理サーバ上の4 VMware 仮想マシン (VM)</li> <li>各 VM に2つのCPU (2.39 GHz), 8 GB のメモリ, および 40 GB のディスク空き領域</li> <li>ストレージには HP EVA 8400/22G を使用</li> <li>物理サーバ: ESX ホストは, 8x Intel Xeon x5570 CPU, 72 GB RAM を搭載し, VMware ESX 4.0 U1 をインストールした HP BL490c G6</li> <li>同じ物理サーバにほかのVM は存在していない</li> <li>VMTools をインストール済み</li> </ul> <p>注: SiteScope VM に割り当てられたリソースは他のVM と共有しないでください。</p>
テスト済みの SiteScope 設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>750 台のリモート・サーバ</li> <li>9000 個のモニタ</li> <li>900 実行モニタ数/分</li> </ul>

VMware 環境に SiteScope をインストールする場合は, 上記の最低限のシステム要件を使用します (これらはテスト済み環境に基づく推奨事項であり, サポートに関する制限事項ではありません)。

コンピュータおよびプロセッサ	4 Intel Xeon 物理プロセッサ (各 2 GHz)
オペレーティング・システム	Microsoft Windows 2003 Standard/Enterprise SP2 (物理サーバでサポートされているすべてのオペレーティング・システムは, VM サーバでもサポートされる)
メモリ	4 GB
ハード・ディスクの空き容量	20 GB (ハード・ディスク速度: 7200 rpm)

ネットワーク・カード	1 物理 ギガビット・ネットワーク・インタフェース・カード
その他のソフトウェア	VMTools がインストールされている必要があります。

## 認定されている構成

次の構成は、BSMと統合された SiteScope のインストールのための高負荷環境で認定されています。

オペレーティング・システム	Microsoft Windows Server 2003 SP2 Enterprise Edition( 32 ビット )	Microsoft Windows Server 2003 SP2 Enterprise Edition( 64 ビット )
システム・タイプ	x86 ベースの PC	ACPI マルチプロセッサ x64 ベースの PC
CPU	Intel Xeon 5160 物理プロセッサ× 4( 各 3 GHz)	Intel Xeon 5160 物理プロセッサ× 4( 各 3 GHz)
物理メモリの合計	16 GB	16 GB
Java ヒープ・メモリ	1024 MB	2048 - 3072 MB
モニタの総数	16,000	24,000
リモート・サーバの総数	1,250	2,500
1 分間のモニタ実行数	2,000	3,500

## クライアントのシステム要件

SiteScope クライアントは、次のシステムでサポートされています。

- Microsoft Internet Explorer 7.0, 8.0, または 9.0 を使用するすべての Microsoft Windows オペレーティング・システム( Microsoft Windows 7 を含む)
- Mozilla Firefox ESR 10( Windows 環境で稼動するクライアントでのみ認定)
- Java プラグイン( アプレット表示用 ): JRE 6 以降( JRE 6 update 31 を推奨)

## HP SiteScope サポート・マトリックス

本項の内容

- 「HP Business Service Management 統合 サポート・マトリックス」(24ページ)
- 「HP Operations Manager(HPOM) 統合 サポート・マトリックス」(24ページ)
- 「HP Operations Agent サポート・マトリックス」(26ページ)
- 「負荷テストのための HP SiteScope のサポート・マトリックス」(26ページ)
- 「HP Network Node Manager i( NNMi) サポート・マトリックス」(27ページ)

## HP Business Service Management 統合 サポート・マトリックス

HP SiteScope バージョン	HP Business Service Management バージョン				
	9.1x	9.0x	8.0x	7.5x	7.0x
SiteScope 11.20	√(推奨)	√	√	X	X

## HP Operations Manager(HPOM) 統合 サポート・マトリックス

HPOM バージョン	SiteScope 11.20 の統合			
	イベント統合	ノード・ディスクバリエーション統合	モニタ・ディスクバリエーション統合	テンプレート統合
HPOM for Windows 8.1x(パッチ OMW_00071)	サポート	サポート	サポート	サポートされていません
HPOM for Windows 9.0	サポート	パッチ OMW_00097/98 以降でサポート(32ビット/64ビット)	サポート	サポートされていません
HPOM for Linux/Solaris 9.0	サポート	サポートされています	サポート	サポート
HPOM for Linux/Solaris 9.10	サポート	パッチ 9.10.200 以降でサポート	サポート	パッチ 9.10.210 およびホットフィックス QCCR1A1257-51, または 9.10.210 以降のパッチでサポート

## 共存サポート

HP Operations Manager と SiteScope を同じサーバにインストールする予定の場合は、両製品の共存サポートを確認する必要があります。

HPOM バージョン	SiteScope バージョン	
	SiteScope 11.12	SiteScope 11.20
HPOM for Windows 9.0	サポートされていません	パッチ OMW_00145_6 以降により Microsoft Windows Server 2008 R2 でサポート
HPOM for Linux/Solaris 9.00	Red Hat ES Linux 5.8 でサポート	<ul style="list-style-type: none"><li>Red Hat ES Linux 5.8 でサポート</li><li>パッチ 119254-43 または 119255-43 により Solaris 10 でサポート</li></ul>
HPOM for Linux/Solaris 9.10	パッチ 9.10.210 以降により Red Hat ES Linux 5.8 でサポート	<ul style="list-style-type: none"><li>パッチ 9.10.220 以降により Red Hat ES Linux 5.8 でサポート</li><li>パッチ 119254-43 または 119255-43 により Solaris 10 でサポート</li></ul>

注: HP Operations Manager のハードウェアとソフトウェア設定要件については、[SSO 製品マニュアル・サイト](http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals) (<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>) で該当するバージョンの Operations Manager for Windows/UNIX のインストール・ガイドを参照してください。

## HP Operations Agent サポート・マトリックス

HP SiteScope バージョン	HP Operations Agent バージョン
11.0x	8.60.70
11.1x	8.60.501
11.20	11.02.011

**注:**

- HP Operations Agent のインストールには Microsoft Installer 4.5 以降が必要です。
- HP Operations Agent は Microsoft Window 2003 SP1 にインストールされた SiteScope ではサポートされません。
- HP Operations Agent のインストール要件の詳細については、<SiteScope のルート・ディレクトリ>\installation\components\oa\win\paperdocs または HP ソフトウェア製品 マニュアル Web サイト (<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>) で HP Operations Agent のドキュメントを参照してください。

## 負荷テストのための HP SiteScope のサポート・マトリックス

HP SiteScope バージョン	HP Performance Center	HP LoadRunner
SiteScope 10.10	9.10, 9.50	
SiteScope 10.11	9.10, 9.52	
SiteScope 10.12	9.52, 11.00	11.00
SiteScope 11.00	11.00	11.00
SiteScope 11.01	11.00, 11.50	11.00, 11.50
SiteScope 11.10	11.00, 11.50*	11.00, 11.50
SiteScope 11.11	11.00, 11.50*	11.00, 11.50
SiteScope 11.12	11.00, 11.50	11.00, 11.50
SiteScope 11.20	11.00, 11.50	11.00, 11.50

\* PC トポロジの統合はサポートされていません。

## HP Network Node Manager i (NNMi) サポート・マトリックス

統合	対応バージョン
イベント 統合	SiteScope バージョン 11.10 以降 NNMi バージョン 9.10 以降
メトリクス 統合	SiteScope バージョン 11.10 以降 NNMi バージョン 9.10 以降 NNM iSPI Performance for Metrics バージョン 9.10 以降

---

# インストールに関する注意事項

本項の内容

- 「インストールの前提条件」(28ページ)
- 「Oracle Enterprise Linux 環境への SiteScope のインストール」(28ページ)
- 「HP Operations Agent が必要とする依存関係のインストール」(29ページ)
- 「CentOS 6.2 環境への SiteScope のインストール」(30ページ)
- 「CentOS 6.2 で実行する HP Cloud Services インスタンスへの SiteScope のインストール」(30ページ)

## インストールの前提条件

- 『HP SiteScope デプロイメント・ガイド 11.20』の指示に従ってサポート対象の Windows, Solaris, または Linux 環境に SiteScope 11.20 をインストールしてください。システム要件の詳細については、「システム要件」(17ページ)を参照してください。
- 既存の SiteScope 11.x バージョンがインストールされている場合は、アンインストールしてから SiteScope 11.20 をインストールする必要があります。
- 設定ツールを使用して SiteScope 設定データをエクスポートすれば、SiteScope 10.x 以降のバージョンを SiteScope 11.20 に直接アップグレードできます。SiteScope 10.00 よりも前のバージョンの場合は、まず SiteScope 10.x にアップグレードしなければなりません。SiteScope 9.x よりも前のバージョンの場合は、まず SiteScope 9.x にアップグレードしなければなりません。アップグレードの詳細については、『HP SiteScope デプロイメント・ガイド 11.20』を参照してください。
- HP Operations Agent の前提条件およびインストール要件については、「HP Operations Agent サポート・マトリックス」(26ページ)を参照してください。

## Oracle Enterprise Linux 環境への SiteScope のインストール

SiteScope(64ビット)を Oracle Enterprise Linux 6.0(64ビット)にインストールするには、事前に次の依存関係を環境にインストールする必要があります。

- glibc-2.12-1.25.el6.i686.rpm
- glibc-common-2.12-1.25.el6.i686.rpm
- nss-softokn-freebl-3.12.9-3.el6.i686.rpm
- libXau-1.0.5-1.el6.i686.rpm
- libxcb-1.5-1.el6.i686.rpm libX11-1.3-2.el6.i686.rpm

Oracle Enterprise Linux で提供される yum パッケージ・マネージャを使用して、次のコマンドを実行して依存関係をインストールできます。

```
yum install -y glibc glibc-common nss-softokn-freebl libXau libxcb libX11 libXext
```

これらの依存関係は、すべての Red Hat ベースのシステムの標準のリポジトリ(/etc/yum.repos.d)にあります。

## HP Operations Agent が必要とする依存関係のインストール

HP Operations Agent を SiteScope サーバにインストールするとき、次を実行する必要があります。

1. HP Operations Agent をインストールするには、事前に次の依存関係を環境にインストールする必要があります。

### Red Hat ES Linux 6.0(64 ビット) の場合 :

- Red Hat Enterprise Linux 6 PPC ノードに compat-libstdc++-33-3.2.3-69.el6.ppc64.rpm をインストールします。
- Red Hat Enterprise Linux 6 x64 ノードに compat-libstdc++-33-3.2.3-69.el6.i686.rpm をインストールします。

Red Hat Enterprise Linux で提供される yum パッケージ・マネージャを使用して、次のコマンドを実行して依存関係をインストールできます。

```
yum install compat-libstdc++-33-3.2.3-69.el6.i686.rpm または
```

```
yum install compat-libstdc++-33-3.2.3-69.el6.ppc64.rpm
```

### SunOS の場合 :

- SunOS パッチ **119254-43** または **119255-43** をインストールします。
- システムの IP アドレスがシステムのホスト名にマップされていることを確認します。

**注:** HP Operations Agent のインストールおよび使用の追加要件については、HP ソフトウェア・サポート Web サイト (<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>) の『Operations Agent インストール・ガイド』を参照してください。

2. HP Operations Agent をインストールした後、ログ・ファイルでインストール・ステータスを確認してください。

### ■ SiteScope ログ :

これはインストールが正常に完了したかどうかを表示するだけです。

ログ・ファイル名 : **HPSiteScope\_config\_tool.log**

ログ・ファイルの場所 :

- **win- %temp%**(Windows プラットフォームの場合)
- **/temp** または **/var/temp**(「installOATask」の結果を検索)(UNIX/Linux プラットフォームの場合)

### ■ HP Operations Agent ログ・ファイル :

ログ・ファイル名 : **oainstall.log**, **oapatch.log**

ログ・ファイルの場所 :

- **%ovdatadir%log**( Windows プラットフォームの場合)
- **/var/opt/OV/log/**( UNIX/Linux プラットフォームの場合)

## CentOS 6.2 環境への SiteScope のインストール

CentOS 6.2( 64 ビット) 環境に SiteScope をインストールする前に、次の追加ライブラリのいずれかが Linux 環境にインストールされていることを確認します( 最初のオプションの使用が推奨されます)。

- 次のコマンドを実行して、glibc.i686 ライブラリをインストールします。

```
[root@centos ~]# yum install glibc.i686
```

- JRE がインストールされ、パスが正しく書き込まれていることを確認します。

```
[root@centos ~]# java -version
java version "1.6.0_22"
OpenJDK Runtime Environment (IcedTea6 1.10.6) (rhel-1.43.1.10.6.el6_2-x86_64)
OpenJDK 64-Bit Server VM (build 20.0-b11, mixed mode)
```

「コマンドが見つかりません」というエラーが表示された場合、JRE をインストールする必要があります。これを行うには、次のコマンドを使用します。

```
root@centos ~]# yum install java-1.6.0-openjdk
```

## CentOS 6.2 で実行する HP Cloud Services インスタンスへの SiteScope のインストール

SiteScope は、CentOS 6.2 オペレーティング・システムで実行する HP Cloud Services( HPCS) インスタンスでサポートされています。

### HPCS に SiteScope をインストールするためのヒント

- HP Cloud Services サーバのホスト名を確認して、ホストが解決されていることを確認してください。
  - a. `hostname` コマンドを実行して、ホスト名を取得します。
  - b. `ping <ホスト名>` を実行します。ping 要求が成功すると、ホストはすでに解決可能です。
  - c. 失敗した場合、`ifconfig` を使用して IP を検索します。
  - d. `echo "<IP> <ホスト名>" >> /etc/hosts` を実行して、ホスト名に対応する IP を含む文字列を hosts ファイルに追加します。
  - e. `ping <ホスト名>` を再度実行して、ホストが解決されていることを確認します。
- スワップサイズを確認します。

- a. free コマンドを実行して、スワップが作成されていることを確認します。
- b. スワップが作成されていない場合:

```
[root@centos ~]# free | grep Swap  
Swap: 0 0 0
```

次のコマンドを実行します。

2 GB ファイルを作成します。

```
[root@centos ~]# dd if=/dev/zero of=/swapfile bs=1M count=2048
```

スワップとして初期化します。

```
[root@centos ~]# mkswap /swapfile
```

有効化します。

```
[root@centos ~]# swapon /swapfile
```

- c. スワップを再度確認します。

```
[root@centos ~]# free | grep Swap Swap:          2097144          0  
2097144
```

- 追加のライブラリを「CentOS 6.2 環境への SiteScope のインストール」(30ページ)で説明されているようにインストールします。

#### セキュリティグループ設定

IP プロトコル	開始ポート	終了ポート	タイプ	CIDR IPS
tcp	8080	8080	IP	0.0.0.0/0
tcp	22	22	IP	0.0.0.0/0
tcp	8888	8888	IP	0.0.0.0/0
icmp	-1	-1	IP	0.0.0.0/0

## HPCS への SiteScope のインストール方法

1. 現在のディレクトリを SiteScope インストーラがある場所に変更して、SiteScope インストーラを実行します。

```
[root@centos ~]# sh ./HPSiteScope_11.20_setup.bin -i console
```

2. コンソールモードを使用して、SiteScope をインストールします。詳細については、『HP SiteScope デプロイメントガイド』の「SiteScope のインストール」の項を参照してください。

3. インストールが終了したら、SiteScope を実行します。

```
[root@centos ~]# /opt/HP/SiteScope/start
```

4. SiteScope サービスが起動されるまで数分待機してから、必要なプロセスが実行中であることを確認してください。

```
[root@centos ~]# ps -ef | grep SiteScope | grep -v grep | awk '{print $3}'
```

8475

8477

最後のコマンドには、SiteScope プロセスのプロセス ID が表示されます。プロセスが2つあれば、SiteScope サーバは正常に起動しています。

## 注意事項および制限事項

Operations Manager 統合 および HP Operations Agent のインストールは現在、CentOS 6.2 サーバにインストールされた SiteScope 11.20 ではサポートされていません。

---

## 注意事項および制限事項

ほとんどの場合、問題および制限事項は変更要求番号 (QCCRxxxxxxx) で識別されます。HP ソフトウェア・サポート Web サイトで問題についての詳細を確認する際、または HP サポートの担当者に連絡する際にこの番号を使用します。

本項に記載している制限事項について最新情報を確認する場合、または特定の製品やバージョンの既知の問題のリスト全体を見る場合は、HP ソフトウェア・サポート Web サイトで[セルフソルブ]タブをクリックし、[関連する下位製品を含める]を選択してから製品、バージョン、オペレーティング・システムを選択し、[ドキュメントの種別]のエリアから[既知の問題]のみを選択して[検索]をクリックします。また、[セルフソルブ]ページ上部のキーワード・ボックスを使用して特定の CR を検索することもできます。

## 監査ログ

---

### QCCR1159672

SiteScope オブジェクトにテンプレートの変更が適用されると、監査ログには更新されたオブジェクトが記録されます。ただし、変更前後の値は表示されません。

## キャパシティに関する制限事項

---

### QCCR1130633

SiteScope が BSM と統合されている場合に負荷が非常に高い処理を実行すると、SiteScope に問題が発生することがあります。次のガイドラインに従ってください。

- 3,000 を超えるモニタにテンプレート変更適用ウィザードを一度に実行しないでください。
- モニタ・デプロイメント・ウィザードを実行して、3,000 を超えるモニタを一度に作成しないでください。
- 1 回の操作で 3,000 を超えるモニタのコピーおよび貼り付けを実行しないでください。
- グローバル検索と置換を実行して、2,500 を超えるモニタの BSM 統合プロパティを一度に変更しないでください。

高負荷条件下で作業している場合は、初めて BSM に接続する前に全モニタを一時停止してください。

## 設定

---

### QCCR1137003

SiteScope アプレットでは、クライアント Java 設定で[コンピュータに一時ファイルを保持します]が選択されていなければなりません([コントロールパネル] > [Java] > [基本] タブ > [インターネット一時ファイル] > [設定])。選択しないと「NoClassDefFound」例外が発生し、アプレットの読み込みが失敗します。

セキュリティ上必要な場合は、SiteScope アプレットの使用が完了した時点でこれらの一時ファイルを手動で削除してください。

1. SiteScope アプレットを終了します。
2. [スタート] > [コントロールパネル] > [Java] > [一般] タブを選択します。
3. [インターネット一時ファイル] セクションで、[設定] > [ファイルの削除] をクリックします。

---

Microsoft Windows Server 2008 に SiteScope をインストールする場合、[プリファレンス] > [インフラストラクチャプリファレンス] > [一般設定] > [タイムゾーンオフセット] で、グリニッジ標準時 (GMT) のタイムゾーン・オフセット (時間単位) を手動で定義する必要があります。たとえば、タイム・ゾーンが GMT +2 の場合、タイム・ゾーン・オフセットに「-2」と入力します。タイム・ゾーンが GMT -5 の場合、タイム・ゾーン・オフセットに「5」と入力します。GMT の場合、「-999」または「0」と入力します。

## ダッシュボード

---

### QCCR1120806

ユーザ・セッション中は、モニタ履歴ビューのダッシュボード列のレイアウトを保存できません。

## Diagnostics 統合

---

統合プリファレンスにDiagnostics統合を作成するときに、[追加のデータを含める]オプションを選択した場合、その他のすべてのDiagnostics統合および一般データの統合に影響を与えます (SiteScope がこれらのアプリケーションに転送するデータにもこの追加データが含まれます)。すべてのDiagnostics統合および一般データの統合にこの追加データが必要な場合にのみ、このオプションを選択することをお勧めします。オプションの詳細については、『SiteScope の使用』ヘルプの「統合プリファレンス・ユーザ・インタフェース」の「Diagnostics 統合プリファレンス・ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## ドキュメント

---

Internet Explorer 8(32 または 64 ビット・バージョン) で SiteScope オンライン・ヘルプ・システムを表示すると、番号付きリストまたはアルファベット順のリストが文字化けする場合があります。

**回避策** :Internet Explorer 8 で、[ツール] > [互換表示設定]を開き[すべての Web サイトを互換表示で表示する]を選択します。[閉じる]をクリックすると、番号付きリストが正常に表示されます。

## グローバル検索と置換

---

### QCCR1142998

グローバル検索と置換を使用している場合、リモート・サーバとモニタで使用している[資格情報]の値は置換できません。

---

#### QCCR1145045

インジケータ設定はグローバル検索と置換ではサポートされていないため、利用できません。

---

#### QCCR1136248

グローバル検索と置換を使用している場合は、次のグループからモニタを選択したときのみ[サーバ]プロパティを利用できます。CPU モニタ、ディスク・スペース・モニタ、メモリ・モニタ、Microsoft Windows パフォーマンス・カウンタ・モニタ、Web サーバ・モニタ、サービス・モニタ。その他のモニタの場合、[サブタイプの選択]ページで特定のモニタのサブタイプを選択することによってのみ[サーバ]プロパティを変更できます。たとえば、Web サーバ・モニタで CPU モニタを選択している場合は、[サーバ]プロパティを使用できます。このグループ以外のモニタも選択している場合、[サーバ]プロパティは使用できません。

[サマリの確認]ページには、SiteScope で認識されるリモート・マシンの名前ではなく、監視対象サーバの実ホスト名が表示されます。つまり、同じホスト・マシンに対して作成される複数のリモート・サーバを区別できません(たとえば、あるリモート・サーバで WMI 接続方法を使用し、別のリモート・サーバで NetBios を使用する場合)。

## インストール - OM 統合

---

#### QCCR1151861

Operations Manager イベント統合の設定時にローカル・ポリシーの署名とインストールで問題があると、インストールがハングします。

**回避策：** HP Operations Agent または SiteScope サーバを再起動します。

---

#### QCCR1171690

HP Operations Manager for Windows に短縮名でノードを作成すると、モニタ・ディスクパブリ・ポリシーに問題が発生しモニタ・サービスの一部が検出されない場合があります。

**回避策：** 完全修飾ドメイン名(ある場合)でノード(特に SiteScope サーバ・ノード)を作成してください。

## インストールとアップグレード

---

#### QCCR1152241

環境変数 %TEMP% および %TMP% が空き領域を含むディレクトリ・パスを参照する場合、Windows マシンに SiteScope をインストールできない可能性があります。例：C:\Documents and Settings\Default User\Local Settings\Temp。

**回避策：** 環境変数 %TEMP% および %TMP% を、空白を含まないディレクトリ・パスにポイントするように変更します。例：C:\Temp。

---

#### QCCR1132727

SiteScope 7.5.x から 9.0, そして 10.1x へのアップグレード後, 7.5.x に管理者ユーザと正規ユーザが含まれておりこの管理者のユーザ名とパスワードが空白であった場合は, モニタおよび警告の一部またはすべてがユーザ・インタフェースに表示されないことがあります。

**回避策:** SiteScope 9.0 へのアップグレード後に, ユーザ・インタフェースの[プリファレンス] > [ユーザ管理プリファレンス]で管理者ユーザのユーザ名とパスワードを入力します。

---

#### QCCR1157144

SiteScope のアンインストールに失敗した場合, SiteScope サーバを再起動してからアンインストールを再試行してください。

SiteScope 11.10 へのアップグレードを行うと, **templates.os** ファイルは前のバージョンの SiteScope でカスタマイズしたファイルを含めてアップグレードされたファイルによって上書きされます。前のバージョンで **templates.os** フォルダに新しい設定ファイルを追加していた場合, これらのファイルはアップグレードの影響を受けずフォルダに残ります。

**回避策:** templates.os ファイルに行ったカスタマイズを復元するには, 次の手順を実行します。

1. 古いバージョンの SiteScope の一部の設定ファイルは 11.10 と互換性がなく, 変更すると機能しなくなる場合があるため, 元の SiteScope 11.10 設定ファイルのバックアップを作成します。
  2. アップグレード前に設定ツールを使用して SiteScope 設定データをエクスポートすることで作成したバックアップ・ファイルを展開します。
  3. 新しいファイルを手動で変更します。
- 

#### QCCR1163204

SiteScope 11.20 以降に適用されます。

ホットフィックスは, SiteScope アンインストール・プログラムでアンインストールすることはできません。ホットフィックスを削除する場合は, 次のようなパッチ固有のアンインストール・スクリプトを実行します。

- <SiteScope のルート・ディレクトリ>\installation\<パッチ名>\uninstall.bat (Windows プラットフォーム)
  - <SiteScope のルート・ディレクトリ>\installation\<パッチ名>\uninstall.sh (Linux または Solaris プラットフォーム)
- 

#### QCCR1158914

SiteScope をインストールまたはアップグレードすると, テンプレートおよびソリューション・テンプレートが [テンプレート] コンテキストからなくなる場合があります。

**回避策:**

1. SiteScope をインストールまたはアップグレードする前に, SiteScope 内の既存のテンプレート例の名前を変更してサイレント・インポート時の名前の競合を回避します(次のステップを参照)。名前が重複すると, インポート・プロセスが正常に完了しない場合があります。
  2. アップグレードを実施済み(そしてテンプレートがなくなっている)の場合, <SiteScope ルート>\export ディレクトリから <SiteScope のルート・ディレクトリ>\persistency\import ディレクトリ(このフォルダがない場合は作成する必要があります)にすべてのテンプレートをコピーします。
- 

#### QCCR1171987

SiteScope 11.12 から SiteScope 11.20 へのアップグレード後、Amazon CloudWatch 統合で不正な地域が使用されます。

**回避策：** アップグレード後、Amazon Cloudwatch 統合を開き[Amazon CW セキュリティ設定]パネルで必要な地域を選択します。

---

### QCCR1171260

SiteScope のインストール中に、ウィザードの破損により SiteScope 設定ウィザードで SiteScope を設定できない場合があります([次へ]をクリックできない)。

**回避策：**

1. HP SiteScope 設定ウィザードを閉じます。
  2. %Temp%\.\.HPOvInstaller\HPSiteScope\_<バージョン> に移動します(例 :HPSiteScope\_11.20)。
  3. ovinstallparams\_<タイムスタンプ>.ini ファイルのいずれかを %Temp% にコピーします(例 :ovinstallparams\_2012.06.03\_13\_44.ini)。
  4. %Temp%/ovinstallparams\_<タイムスタンプ>.ini の名前を %Temp%/ovinstallparams.ini に変更します。
  5. コマンド・プロンプトのウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。%Temp%/HPSiteScope/postinstall\_launch\_sis\_config.bat %cd%
  6. 『SiteScope デプロイメント・ガイド』の記載に従って SiteScope の設定を続行します。
- 

SiteScope ユーザ・インタフェースが起動せず、「Several Java Virtual machines running in the same process caused an error」というエラー・メッセージが表示されます。これは、既知の Java の不具合で ([http://bugs.sun.com/view\\_bug.do?bug\\_id=6516270](http://bugs.sun.com/view_bug.do?bug_id=6516270)) (英語サイト)、Internet Explorer 7 の使用時に発生する場合があります。

**回避策：** 次のいずれかを実行します。

- Internet Explorer 7 以外のブラウザを使用する
  - Java 6 update 10 以降にアップグレードする
  - [プログラムの追加と削除]ダイアログ・ボックス([スタート] > [コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除])で、最新バージョン以外の Java/Java Runtime Environment のインストールをすべて削除する
- 

SiteScope ユーザ・インタフェースが起動せず、SiteScope アプレットの起動中にエラー・メッセージ(例 :「Java Runtime Environment がロードできません」)が表示されます。

**回避策：** 次の手順を実行します。各手順の後で、SiteScope を再度開いてみてください。それでもエラーが発生する場合は、次の手順に進んでください。

1. すべてのブラウザ・ウィンドウを閉じます。
2. Windows タスク・マネージャを使用して、実行中のブラウザ・プロセスがあればすべて終了します。
3. ローカルの Java アプレット・キャッシュを消去します。[スタート] > [コントロール パネル] > [Java] の順に選択し、[一般]タブで[ファイルの削除]をクリックして[OK]をクリックします。

4. 次のフォルダの内容を削除して、ローカルの Java アプレット・キャッシュを消去します。**C:\Documents and Settings\<ユーザー名>\Application Data\Sun\Java\Deployment\cache**
- 

SiteScope メニュー・バーが開くが、アプレットの起動に失敗し、空の画面または「x」の画像が表示されます。

**回避策：** 次の手順を実行します。

1. [スタート] > [コントロール パネル] > [Java] をクリックします。
  2. Java コントロール・パネルで [詳細] タブをクリックします。
  3. [ブラウザのデフォルトの Java] フォルダ (または Java 5 を使用している場合は <APPLET> タグ・サポート) を展開し、[Microsoft Internet Explorer] と [Mozilla ファミリ] が選択されていることを確認します。
  4. [適用] をクリックしてから [OK] をクリックします。
- 

いくつかの複雑なトポロジ (WebSphere, WebLogic など) により、トポロジ・データを BSM にレポートする機能が強化されました。SiteScope では、アップグレード後の初回起動時に、これらのトポロジのプロパティを収集する必要があります。この場合、監視対象サーバに接続して追加データを取得するため、しばらく時間がかかる場合があります。15 分以内にモニタが実行されないと SiteScope が自動的に再起動されるため、15 分以上時間が経過すると、初回再起動時に問題が発生する場合があります。

**回避策：**

1. アップグレード後、まず次のバッチ・ファイルを使用して SiteScope を起動します。<SiteScope のルート・ディレクトリ>/bin/go.bat
  2. SiteScope を起動したら、実行されていない環境を監視しているモニタの [HP 統合設定] で、[BSM 統合データとトポロジ設定] の [BSM へのメトリックのレポートを無効にする] を選択すると、監視対象サーバからの応答の待ち時間が短縮されます。
- 

Internet Explorer 例外エラー・メッセージが SiteScope ページ内に表示され、オペレーションが中止されたことが示されます。

**回避策：** システムの Skype アドオンを削除するか無効化します。詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/927917/ja> を参照してください。

---

## 統合 - BSM

---

### QCCR1135093

ホストを別の名前 (Topaz ID) で解決すると、ホスト DNS 解決後に SAM レポートの履歴データが失われます。

**回避策：** 古い Topaz ID を検索し履歴データの新しい ID と置き換えることで、BSM データベースを手動更新します。

---

### QCCR1139607

SiteScope は**実行中のソフトウェア** CI にリンクしなければならない **IpServiceEndpoint** CI をレポートしないため、SiteScope と Real User Monitor の両方によってレポートされた**実行中のソフトウェア** CI が一致しません。BSM にトポロジをレポートするには、モニタ・プロパティの[HP 統合設定]パネルで[**モニタおよび関連 CI のトポロジをレポート**]オプションを選択してください。

---

#### QCCR1128808

バージョン 10.00 以前の SiteScope が BSM 9.00 に接続されている場合、**application\_id** 属性が BSM 9.00 のアプリケーション CI から削除されているため、アプリケーション CI (HP OVO, NetScout, および汎用統合) をレポートする EMS 統合に失敗します。

---

#### QCCR1148052

ソリューション・テンプレートからデプロイされる一部のモニタでトポロジの送信に失敗します(一部のモニタの標準設定で、BSM にトポロジをレポートするオプションが選択されていないため)。

**回避策** : ソリューション・テンプレートを使用してモニタをデプロイした後に、次の手順を実行します。

1. モニタ・プロパティの[**HP 統合設定**]を展開します。
  2. [**モニタの状態およびメトリックのレポートを有効にする**]([**BSM Integration and Data and Topology Reporting**]セクション)を選択し、BSM にレポートするモニタを有効にします。
- 

#### QCCR1149144

Internet Explorer 7 を使用してシステム可用性管理から SiteScope にアクセスすると、「408 Request Timeout」エラーが表示されます。

**回避策** : SiteScope に BAC/BSM からログインするには、Internet Explorer でセッション・クッキーを許可するオプションを有効にする必要があります。

1. Internet Explorer で、[ツール] > [**インターネット オプション**] > [**プライバシー**]タブ > [**詳細設定**]ボタンを選択します。
  2. [**自動クッキー処理を上書きする**]を選択し、[**ファースト パーティの Cookie**]と[**サード パーティの Cookie**]が[**受け入れる**]に設定され、[**常にセッション Cookie を許可する**]が選択されていることを確認します。
- 

#### QCCR1149550

複数の CI (SAP CCMS, SAP ワーク・プロセス, Siebel アプリケーション・サーバ, Siebel Web サーバ, Solaris ゾーン, または VMware パフォーマンス・モニタ)を持つモニタにしきい値条件を追加すると、最後に追加した条件を除くすべてのしきい値条件で[**インジケータ状態および重大度**]の値が消えます。

**回避策** : 各しきい値を個別に追加および設定するのではなく、しきい値によってしきい値を追加および設定します。モニタを保存すると、すべてのしきい値条件のインジケータ値が表示されます。

---

#### QCCR1156509

以下の場合、モニタは BSM に報告しません。

1. カスタム・トポロジでモニタを作成し、[保存]をクリックします。
2. ([HP 統合設定]から)[モニタおよび関連 CI のトポロジをレポート]チェック・ボックスをクリアし、[保存]をクリックします。
3. [モニタおよび関連 CI のトポロジをレポート]チェック・ボックスを選択し、[保存]をクリックします。

**回避策：** モニタ・プロパティに変更を行い(モニタ名の文字を変えてから元に戻すなど)、[保存]をクリックします。

---

#### QCCR1160368

新しいダウタイムは SiteScope プロファイルに作成できないため、BSM 9.x への接続時は SiteScope 10.x 以前のダウタイム機能はサポートされません。BSM 9.x にアップグレードされた BSM 8.x で前に定義されたダウタイムは SiteScope に反映されません。

**回避策：** BSM 9.x を使用する場合に SiteScope の新しいダウタイム機能のサポートを有効化するには、SiteScope のバージョンを 11.x にアップグレードします。

---

#### QCCR1173658

sitescope.zip パッケージを BSM([管理]>[RTSM 管理]>[管理]>[パッケージ マネージャ])からローカル・サーバにエクスポートしてトポロジ・スクリプトを変更する際には、サーバに再度デプロイされたパッケージが sitescope/discoveryScripts フォルダ下の変更済みファイルのみで構成されていることを確認してください。

**回避策：** sitescope.zip パッケージのすべてのコンテンツをデプロイしておりトポロジ・レポートの問題が発生している場合は、次の手順を実行してください。

1. SiteScope を停止します。
2. %sitescope\_home%/discovery/hsqldb フォルダからコンテンツを削除します。
3. SiteScope を再起動します。
4. トポロジを再同期化します(SiteScope で[プリファレンス]>[BSM 統合プリファレンス]>[BSM プリファレンス利用可能操作]を選択して[再同期化]をクリックします)。

---

SiteScope を BSM に登録しながら SiteScope テンプレートをデプロイすると、BSM にレポートされるトポロジ・データが失われる場合があります。BSM 登録の実行中に設定を変更しないようにすることが推奨されます。

---

パフォーマンスを改善するために、トポロジ・データを BSM の RTSM( Run-time Service Model) に送信する場合、SiteScope でトポロジ・キャッシュを使用します。SiteScope で既存の CI を ODB に送信しようとする、トポロジ・キャッシュのしくみが異なるため、最大で 1 週間 CI が送信されないか、または ODB に作成されない場合があります。

これは次の場合に発生します。

- モニタをあるグループから切り取って新しいグループに貼り付けて(元のグループが空のままになり)、その後新しいグループからモニタを切り取って元のグループに再び貼り付けた場合。
- モニタでデータおよびトポロジのレポート機能を無効にしてから、[HP 統合設定]で再度この機能を有効にした場合。

- CI が ODB から手動で削除された後、キャッシュが消去されるまで再作成されない場合 (EMS フロー - ODB から EMS モニタを削除)。

**回避策：** CI を確認するのに約 1 週間程度待てない場合は、次のように手動でデータを同期化できます。[プリファレンス] > [統合プリファレンス]で関連する統合を編集し、[BSM プリファレンス利用可能操作]領域で[再同期化]をクリックします。

---

SiteScope が BSM に接続されている間に何らかの理由で再起動した場合、SiteScope から BSM に転送されるトポロジ・データの一部が失われる場合があります。

**回避策：** 一部のトポロジ・データが BSM に転送されない場合、次の手順でデータを手動で同期します。

1. [プリファレンス] > [統合プリファレンス]の順にクリックします。
2. 該当する統合を編集します。
3. [BSM プリファレンス利用可能操作]領域で[再同期化]をクリックします。

## 統合 - EMS

---

汎用統合モニタ(テクノロジー・データベース、ログ・ファイル、SNMPトラップ、Web サービス)は BSM 9.1x 以前のバージョンでのみサポートされます。

## 統合 - OM

---

### QCCR1154342

SiteScope が Operations Manager for Windows 9.0(OM)に統合され SiteScope がレポートするノードが OM に存在している場合にノード・ディスカバリ・ポリシーを実行すると、ノード定義が OM から削除され、空のノード・オブジェクトと置き換えられます。

**回避策：** 関連 OM パッチをインストールします(HP ソフトウェア・サポート・サイトの[パッチ]ページを確認してください)。パッチのインストール後、HPOM サーバで SiteScope からのプラットフォームの更新が無視されます。

---

### QCCR1151638

HP Operations Agent のインストール後、SiteScope サーバの再起動が推奨されます。

---

### QCCR1158340

SiteScope が Operations Manager for Windows 9.x(OMW)と同じマシンにインストールされている場合、ディスカバリ・ポリシーの統合(ノード・ディスカバリとモニタ・サービス・ディスカバリ)が機能せず、JVM エラー・ファイルが生成されます。コマンドラインから統合バッチ・ファイルを実行すると、ディスカバリ XML 結果がコンソールに戻されますが、エージェントの agtrep コマンドから実行すると失敗します。

**回避策：** SiteScope のインストールに基づき Java 32 に対応するよう統合スクリプトを手動で設定します。

SiteScope 32 ビットの場合：

1. SiteScope 32 ビットを OMW 9.0 64 ビットを搭載したマシンにインストールします。
2. `run_api_call_om.bat` を `run_api_call.bat` に置き換えて <SiteScope のルート>\integrations\om\bin\om\_discovery\_hosts.bat を編集します。
3. `run_api_call_om.bat` を `run_api_call.bat` に置き換えて <SiteScope のルート>\integrations\om\bin\om\_discovery\_monitors.bat を編集します。

SiteScope 64 ビットの場合：

1. SiteScope 64 ビットを OMW 9.0 64 ビットを搭載したマシンにインストールします。
  2. Java 32 ビットをダウンロードします。
  3. <SiteScope のルート>\integrations\om\bin フォルダで `run_api_call.bat` ファイルのコピーを作成し、名前を `run_api_call_32.bat` に設定します。
  4. `run_api_call_32.bat` をテキスト・エディタで開き、java の場所をダウンロードした 32 ビットの場所に設定します。
  5. `run_api_call_om.bat` を `run_api_call_32.bat` に置き換えて <SiteScope のルート>\integrations\om\bin\om\_discovery\_hosts.bat を編集します。
  6. `run_api_call_om.bat` を `run_api_call_32.bat` に置き換えて <SiteScope のルート>\integrations\om\bin\om\_discovery\_monitors.bat を編集します。
- 

#### QCCR1159226

BSM で HTTPS のリバース・プロキシまたはロード・バランサを使用している場合、SiteScope サーバの HP Operations Agent に証明書を提示し、BSM と安全に通信できるようにする必要があります。エージェントを手動で設定する方法の詳細については、これらのリリース・ノートの更新版を確認してください。

---

#### QCCR1167934

Oracle Enterprise Linux 環境にインストールされた SiteScope 11.0x または 11.10 をアップグレードすると、HOPM または BSM との SiteScope イベント統合が停止したり不正な値が送られる場合があります。

**回避策：** Oracle Enterprise Linux 上で SiteScope 11.11 以降にアップグレードしてから、[プリファレンス] > [統合プリファレンス] > [HP Operation Manager 統合] > [HP Operation Manager 統合メイン設定] から [ポリシーのインストール] ボタンをクリックしてイベント統合ポリシーを再デプロイします。

---

SiteScope と Operations Manager を統合した場合、SiteScope に含まれる HP Operations Agent で OS インスタンス拡張ライセンスが必要となります。ノード・ディスカバリ・ポリシーで Operations Manager に登録されたノードでも、(間違っ) Target Connector ライセンスが要求される場合があります。Operations Manager のライセンス要件の詳細については、Operations Manager のマニュアルを参照してください。

---

Operations Manager 9.0 for Windows の 64 ビット・コンソールでは、サービス・ツリー・ビューがサポートされません(OM と SiteScope を統合している場合)。ツリー・ビューは左側のペインでは利用できますが、右側のサービス・マップでは利用できません。

---

HP Operations Agent が Operations Manager から管理する SiteScope マシンにある場合、SiteScope と BSM をイベント統合により接続できません。

## 統合モニタ

---

### QCCR1142212

カスタム・トポロジのレポートを Unix から Windows CI タイプに変更した場合 (同じ IP をレポートする場合)、古い CI とリンクがモニタのトポロジから削除されません。

---

### QCCR1148048

EMS モニタ・テンプレートでカスタム・トポロジを変更後、その変更を公開しても、BSM にあるモニタのカスタム・トポロジは変更されません。

## LDAP 認証

---

### QCCR1131883

LDAP 認証を使用して SiteScope にログインすると、認証の問題によって管理レポートを生成できません。

**回避策** : SiteScope で、LDAP と同じユーザ・パスワードを定義します。

## LoadRunner の統合

---

### QCCR1149652

SiteScope 11.01 が LoadRunner 9.52 と統合されている場合は、標準設定のカウンタ・リストを使用して LoadRunner から Microsoft Windows リソース・モニタを作成できません。

**回避策** : 手動でカウンタを追加します。

## モニタ・デプロイメント・ウィザード

このテキストを削除して、独自のコンテンツと差し替えます。

---

### QCCR1139697

モニタ・デプロイメント・ウィザードでは、標準設定トポロジが定義されているモニタのトポロジ・レポートのみがサポートされています。つまり、テンプレートのすべてのモニタで CI タイプが標準設定の CI タイプである場合のみ、CI にテンプレートを選択して追加できます。

## モニタ

---

### QCCR1153756

SiteScope は Microsoft SQL Server 2008 からインスタンスおよびカウンタを取得できません。

**回避策** : Microsoft Windows リソース・モニタで Microsoft SQL Server 2008 を監視できます。

---

#### QCCR1141203

モニタ状態の日付と時刻の形式は、ブラウザのロケールではなくサーバのロケールに従って表示されません。

---

#### QCCR1154666

次の仮想化モニタでは、HPOM 統合イベントとメトリクスに関する VM インスタンス・ベースの情報がサポートされません。VMware パフォーマンス・モニタ、VMware ホスト CPU/メモリ/ネットワーク/状態/ストレージ・モニタ、Solaris ゾーン・モニタ、および Microsoft Hyper-V モニタ。

これらのモニタによって生成された HPOM イベントまたは Performance Manager メトリクスはすべて、関連するメトリック内に組み込まれている実際の VM ではなく監視対象 (ESX や vCenter など) に関連付けられます。

**注** : BSM との統合時には、イベントおよびメトリクスは CI 解決に基づき適切な VM CI と関連しません。

---

#### QCCR1141201

**データベース・クエリ・モニタ** : データベース・クエリ・モニタのステータスはサーバのロケールに基づいて表示されます。データベースからエラー・メッセージなど特定のメッセージがあるとき、サーバのロケールとクライアントのロケールが異なる場合、および情報に非ラテン文字が含まれる場合は、ステータス・フィールドにこれらの情報が正しく表示されないことがあります。

---

#### QCCR1158676

**データベース・クエリ・モニタ** : 空白は許可されないため、[データベース接続 URL] フィールドの空白で区切られた LDAP URL は使用できません。

---

#### QCCR1134224

**ディスク領域モニタ** : WMI の制限事項により、このモニタを Windows Server 2008 で使用すると WMI 接続方法では正しくない結果が返されます。

**回避策** : WMI を使用して Windows Server 2008 を監視するには、対象の Windows システムに Microsoft ホットフィックス (<http://support.microsoft.com/kb/961435/ja>) をインストールする必要があります。

---

#### QCCR1128593

**ディスク領域モニタ** : ディスク領域モニタには、使用するプロトコル (NetBIOS, WMI, 非 Perfex ベースの SSH) によって若干異なる結果が表示されます。

---

#### QCCR1152457/ QCIM1152316

**DNS モニタ** : DNS モニタは、Microsoft Windows 2008 の日本語環境では機能しません。

**回避策** : [プリファレンス] > [インフラストラクチャプリファレンス] > [モニタ設定] から [DNS Java ライブラリを使用] オプションを選択します。

---

#### QCCR1141200

**FTP モニタ** : FTP モニタのサマリ・ステータスは、ブラウザのロケールではなくサーバのロケールに基づいて表示されます。

---

#### QCCR1123798

**ファイル・モニタ** : HP-UX または Linux オペレーティング・システムで実行する UNIX リモート・サーバの接続方法として Telnet を使用し、(1) LANG 環境変数が設定されていないか、または (2) 「set -u」が有効で LANG または LC\_ALL 環境変数が設定されていない場合、監視するファイルに関係なくファイル・モニタが動作しません。

**回避策** : SiteScope ユーザ向けに、LANG および LC\_ALL の環境変数を永久に標準設定のシェルに設定します。

---

#### QCCR1152088

**HP iLO モニタ** : SiteScope は HP iLO バージョン 3 をサポートしていません。

---

#### QCCR1139836

**ログ・ファイル・モニタ** : ログ・ファイル・モニタは、Linux のシンボリック・リンクからファイルを監視できません。

---

#### QCCR1132441

**Microsoft Windows イベント・ログ・モニタ** : Microsoft Windows イベント・ログ・モニタは Windows 2008 サーバ上で「危険域」のイベントを監視できません。これは、イベント・タイプ・リストでこのタイプのイベントがサポートされていないからです。この制限は、Windows Server 2008 にインストールされている SiteScope に関連します。

---

#### QCCR1134285

**Microsoft Windows Media Server モニタ** : Microsoft Windows Media Server モニタは、Windows Server 2008 (64 ビット) の監視を行っている場合はリモート・サーバからカウンタを取得できません。

---

#### QCCR1133005

**Microsoft Windows リソース・モニタ** : NetBIOS またはエージェント・ベースの SSH を使用して英語のマシンから英語以外の文字を含むリモート・サーバを監視する際に測定値を受領できません。

**回避策** : 両方のシステムで同じオペレーティング・システム言語を使用します。

---

#### QCCR1127152

**Oracle データベース・モニタ** : SiteScope で Oracle データベース・モニタを作成し、その後 BSM に接続した状態でそのモニタおよび関連トポロジを BSM にレポートさせたい場合は、[名前] および [サーバ] フィールドにデータベース・マシンの値を入力し、[HP 統合設定] > [BSM 統合データとトポロジ設定] で [モニタおよび関連 CI のトポロジをレポート] のチェック・ボックスを選択する必要があります。

---

#### QCCR1126236

**Ping モニタ** : SiteScope を Solaris 上にインストールしている場合は、Ping モニタの実行に時間がかかり、ポップアップ・ウィンドウへのモニタ・ステータス表示のタイムアウトを超過する場合があります(標準設定のタイムアウトは5秒です)。

**回避策** : [Ping モニタ設定] パネルで[タイムアウト(ミリ秒)] フィールドの値を上げます。

---

#### QCCR1167130

**SAP Java Web アプリケーション・サーバ・モニタ** : SAP Java Web アプリケーション・サーバ・モニタは新しいカスタム・モニタのセキュリティ設定と互換性がなく、標準設定では利用できません。

**回避策** : このモニタを使用している、または使用する予定でありカスタム・モニタを使用するつもりがない場合は、SiteScope JVM の次の属性を変更してください。

#### UNIX の場合 :

1. SiteScope サービスを停止します。
2. <SiteScope のルート・ディレクトリ>\bin フォルダにある **start-monitor** ファイルのバックアップを作成します。
3. **start-monitor** ファイルから以下を削除します。

```
-Djava.security.manager -  
Djava.security.policy="..\conf\security\sitescope.policy"
```

#### Windows の場合 :

1. SiteScope サービスを停止します。
2. regedit で Windows レジスタを変更します(コマンドラインから regedit を実行)。
3. 次のレジストリ・サブキーを開きます。HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services<SiteScope サービス>  
例 : HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\HP SiteScope
4. このノードの **serviceParam** プロパティ値のバックアップを作成します。
5. 以下を削除して **serviceParam** プロパティの値を変更します(このパラメータは **serviceParam** プロパティの2箇所にあります)。

```
-Djava.security.manager -  
Djava.security.policy="..\conf\security\sitescope.policy"
```

---

#### QCCR1130899

**スクリプト・モニタ** : Telnet 接続を使用して Linux リモート・サーバを監視するようスクリプト・モニタを定義した場合にスクリプトが USE COMMAND として定義されていると、照合表現が正しく機能しない場合があります。これは、USE COMMAND の実行に使用できる文字数の制限が原因です。標準設定では、ターミナル・コマンドラインには行あたりのコマンドのサイズに文字数制限があります。

**回避策** : 定義済み Linux リモート・サーバ上で接続方法を **SSH** に変更します。

---

#### QCCR1146193/ 4605843461

**サービス・モニタ** : Solaris の制限事項により、SiteScope は最大 80 文字までしかサービス名を表示できません。

---

#### QCCR1125754

**テクノロジー統合 モニタ** : テクノロジー・ログ・ファイル統合 モニタを作成する際は、短いログ・ファイルを使用してトポロジ・スクリプトの[スクリプトのテスト](モニタ設定時に、[トポロジ設定]領域で[スクリプト]フィールドのトポロジ・スクリプトを選択し[スクリプトのテスト]をクリック)を実行することをお勧めします。トポロジ・スクリプトのテストに長いログ・ファイルを使用している場合は、数分かかる場合があります。

---

**メモリ・モニタ** : WMI 接続メソッドが Windows Server 2008 で使用されている場合、WMI は不正なメモリ使用率および空き容量カウンタ値を返します。これは WMI の問題によるものです(SiteScope ではなく)。

---

**モニタしきい値** : [モニタ設定]パネルのカウンタ・ツリーで、[しきい値の設定]パネルで定義された対応するしきい値を持つカウンタをクリアまたは追加した場合、カウンタは次のようになる場合があります。

- [しきい値の設定]パネルで、次にカウンタ・ツリーで選択するカウンタに置き換わる。
- 標準設定のカウンタに置き換わる。
- [しきい値の設定]パネルから削除される。

この制限は、テンプレート・モードのみでの参照可能なモニタのカウンタ・タイプのすべて、通常モードとテンプレート・モードでの Microsoft Windows リソース・モニタ、Apache モニタ、および状況モニタに適用されます。

---

**モニタ・ツリー** : SiteScope モニタ・ツリーのグループ・コンテナ間に大きなスペースがある場合は、ブラウザを更新します。

---

**SNMP モニタ** : SNMP モニタが HP Diagnostics にデータをレポートするように統合されている場合、実際の測定値名ではなく測定値のラベルが名前として送信されます。

**回避策** : 代わりに MIB による SNMP モニタを使用します。

---

#### QCCR1166218

**UNIX リソース・モニタ** : AIX 環境で UNIX リソース・モニタを設定する場合、プロセス・リストに表示されるプロセス名はカットされます。

---

#### QCCR1166209

**UNIX リソース・モニタ** : SunOS 環境で UNIX リソース・モニタを設定する場合、プロセス・リストに表示されるプロセス名はカットされます。

---

#### QCCR1178244

**VMware データストア・モニタ** : トポロジのレポートは、SiteScope が BSM 9.20 以降に接続されている場合にサポートされます。

## 多言語サポート

---

#### QCCR1121171

Microsoft IIS サーバ・モニタを設定している場合、カウンタ・リストに英語以外の文字を表示できません。

#### QCCR1150695

Linux 環境でポスト・インストールの設定ツール・ウィザードを使用している場合、英語以外の文字列はサポートされません。

**回避策：**パラメータ「-i console」を使用してコンソール・モードでポスト・インストールの設定ツールを実行します。

#### QCCR1155818

**トルコ語ロケールでのインストールに起因する例外：**トルコ語ロケールを使用して SiteScope のインストール手順を実行しようとする、インストール画面が正しく表示されないため、インストールの質問に答えられません。これはインストール・ソフトウェアに関する問題です。

**回避策：**インストールを完了するには、ロケールを一時的に英語(米国)に設定する必要があります。インストールが完了したら、ロケールを Turkish にリセットできます。

#### QCCR1132444

SNMP ブラウザ・ツールまたは XSL 変換ツールを使用すると、英語以外の言語では結果を判読できない場合があります。

**回避策：**[ファイルに保存] ボタンをクリックして結果を外部ファイルに保存し、外部エディタでファイルを開きます。

#### QCCR1130190

一部のモニタの実行結果が、クライアントのロケールではなくサーバのロケールまたは英語で表示されます。

#### QCCR1154985/QCCR1154978

英語以外のロケールで Microsoft Windows リソース・モニタを使用すると、モニタ・カウンタおよび実行状態サマリが判読できなくなります。

**回避策：**ダイレクト・レジストリ・クエリ収集方法を使用するようモニタを設定します。

#### QCCR1135306

SiteScope ログ・ファイルでは Unicode 文字はサポートされません。英語以外のすべての文字はログで文字化けします。

**回避策：**対応する OS のロケールにインストールされた SiteScope サーバを使用します。たとえば、日本語ロケールの場合には日本語版の Windows OS にインストールされた SiteScope を使用します。

## プリファレンス

---

### QCCR1130651

資格情報プロファイルのユーザ名またはパスワードを変更後、この資格情報を使用する接続は開いたままになり、再接続はされません。

**回避策：** SiteScope を再起動します。

## リモート・サーバ

---

Solaris 10 にインストールされた SiteScope は、SSH 経由で内部 Java ライブラリを使用してリモートの UNIX サーバに接続できません。

**回避策：** <SiteScope のルート・ディレクトリ>\bin\start-monitor ファイルで、JRE の引数リストに次を追加します( `-Dflipper.param.file` 引数の直前)。

`-Djava.nio.channels.spi.SelectorProvider=sun.nio.ch.PollSelectorProvider`

## レポート

---

### QCCR1171113

SiteScope 管理レポートを設定する際、クライアント側で JRE 7 を使用してレポート・タイトルを入力することはできません。

**回避策：** 背景または別のウィンドウをクリックして[新規 SiteScope 管理レポート]ダイアログに戻り、レポート・タイトルを入力します。

## SiteScope API

---

### QCCR114859

ユーザ名とパスワードで保護されていない SiteScope Web サービス API メソッドは、すべて廃止されます。ユーザおよびパスワード認証を使用する API メソッドの名前はすべて変更され、ほかのパラメータで同じメソッド名を使用しないように、Ex サフィックスが付けられます(`enableGroupEx` など)。

## SiteScope Failover

---

### QCCR1160203

SiteScope が BAC/BSM に登録されている場合、SiteScope Failover はプライマリ SiteScope が失敗した後に SiteScope トポロジを再送信しません。

**回避策：** 強制的に SiteScope Failover にすべてのトポロジ・データを BAC/BSM に再送信させます。[プリファレンス] > [統合プリファレンス] > [BSM プリファレンス利用可能操作]から、[再同期化]をクリックします。BSM で PMI レポートを表示するため、SiteScope Failover でプロファイルトポロジを再送信することは重要です。

Windows プラットフォームで SiteScope Failover Manager をインストールする場合、インストールプロセスの最後に次のようなメッセージが表示されます。「SiteScope サービスを開始できません。」

**回避策：** [サービス]コントロール・パネルから **Failover Manager** サービスを手動で開始します。

## SSH

---

UNIX リモート・サーバ上で SSH 再試行メカニズムを使用したときにモニタがスキップされた場合、master.config ファイルでモニタ実行頻度と `_numberOfRepeatExecForSSHConnection` および `_UNIXSSHTimeoutSeconds` のプロパティ値を確認して、これらがスキップの原因ではないことを確認します(モニタ頻度が SSH タイムアウトに等しいなど)。再試行に失敗する場合の時間は、すべて `_UNIXSSHTimeoutSeconds` から使用されます。そのため、再試行回数を多く設定しすぎると(モニタの実行頻度より長くなると)、モニタのスキップ回数が増え、その結果 SiteScope が再起動されます。

---

SSH を使用してリモート・サーバを監視する場合、F-Secure が公式にサポートされなくなりました。

## システム可用性管理

---

### QCCR1130669

SiteScope 11.10 から以前のバージョンの SiteScope へのコピー、貼り付けはサポートされません。

---

### QCCR1132039

モニタ、グループ、またはその他のエンティティを複数の SiteScope インスタンス間でコピーすると、コピー元の SiteScope でコピーされたエンティティに割り当てられたタグが、コピー先の SiteScope に存在しても、そのタグの割り当ては失われます。

---

### QCCR1132040

SiteScope 間でスクリプト警告を含むモニタをコピーして貼り付ける場合、スクリプト警告のリモート・サーバが正しく対象 SiteScope にコピーされない場合があります。

**回避策：** SiteScope 間でスクリプト警告をコピーする場合は、コピーする前にスクリプト警告がアクセスするリモート・サーバが対象 SiteScope に存在していることを確認してください。

---

### QCCR1130759

テクノロジ・ログ・ファイル統合モニタは SiteScope 間でコピーできません。

**回避策：** 対象 SiteScope に同じモニタを作成してください(元のモニタからすべてのモニタ値をコピーします)。テクノロジ統合モニタを含むサブツリーをコピーするには、次の手順を実行します。

1. サブツリーを同じ SiteScope 内の一時的な場所にコピーします。
  2. テクノロジ統合モニタを削除します。
  3. 新しいサブツリーを一時的な場所からもう一方の SiteScope にコピーします。
  4. 一時的な場所を削除します。
  5. もう一方の SiteScope でテクノロジ統合モニタを作成します。
-

SiteScope モニタをコピーしてグループに貼り付けた場合、HP Business Service Management のサービス状況にモニタ・データが表示されるまで 1 時間程度かかる場合があります。

## タグ

---

### QCCR1I71134

SiteScope クライアント環境で JRE 7 が使用されていると、検索/フィルタ・タグおよびレポート・タグを作成できません。

**回避策：** 背景または別のウィンドウをクリックして[タグの検索/フィルタ]または[レポート タグ]パネルに戻ってからタグを作成します。

## テンプレート

---

### QCCR1I32397

テンプレートに無効な依存関係が含まれている(テンプレートに過去に存在したがインポートされたテンプレートにはもう存在していない依存関係が含まれている)場合、テンプレートのデプロイメントに依存関係は表示されません。テンプレート変更適用ウィザードを実行している場合、テンプレートには依存関係は表示されませんが[コンテンツの変更]ページには[依存対象]プロパティが差異として表示されます。

**回避策：** テンプレートに新規の依存関係を追加し、削除してから[保存]をクリックしてください。これにより、存在しない依存関係が削除されます。

## ツール

---

### QCCR1I32543

イベント・ログ・ツールを使用する場合、[ログ名]ボックスで[DNS]が選択され、ターゲット・サーバで DNS サーバがない場合、アプリケーション・ログのコンテンツが[結果]パネルに表示されます。

### QCCR1I56272

[ツールを使用]ボタンから Microsoft Windows イベント・ログ・モニタを設定している場合はイベント・ログ・ツールは利用できません。このツールは、[ツール] > [オペレーティングシステム ツール] > [イベント ログ ツール]から利用可能です。

### QCCR1I32050

データベース接続ツールを使用して、データベース・クエリ・モニタまたはテクノロジー・データベース統合モニタにプロパティを適用する場合、手動で資格情報を入力せずに資格情報プロファイルを選択すると、資格情報データが失われます。

データベース接続ツールを使用して SQL サーバ・データベースに接続すると次のエラーが発生する：  
「例外メッセージ:[mercury][SQLServer JDBC Driver]NTLM(タイプ 2) 認証が要求されましたが、必要な DDJDBCx64Auth04.dll が java.library.path のシステム・プロパティに指定されたパスにありません。」

**回避策** : サード・パーティのドライバを使用します。Microsoft の JDBC ドライバや JTDS ではこの問題は見られません。このドライバはいずれも、引用符付き・引用符無しモードで操作可能であり、Windows 統合認証 (<http://msdn.microsoft.com/en-us/data/aa937724.aspx>) (英語サイト) に対応しています。

---

## 強化要求

本項には、このリリースで対応された強化要求の一覧を示します。

それぞれの不具合の参照番号は Quality Center 変更要求 (QCCR) 番号です。保留中の強化要求については、HP ソフトウェア・サポート・オンラインにアクセスするか HP サポート 担当者に直接問い合わせてください。

## 警告

---

### QCCR1160728

[**選択したグループのサブグループにアクションを適用する**] オプションを [新規警告] または [警告の編集] ダイアログ・ボックスの [モニタの無効化/有効化] 警告アクションのセクションに追加しました。これにより、指定した警告アクションを (メイン・グループだけではなく) 選択したグループのすべてのサブグループに適用できます。

---

### QCCR1144593

電子メール警告にリストされている各モニタ間に改行を追加しました。

注：電子メールはプレーン・テキスト形式であるため、改行を削除しないよう Microsoft Outlook を設定する必要があります。

---

### QCCR1133657

master config ファイルの `_snmpTrapEncoding` パラメータを変更することで送信 SNMP トラップ警告のエンコーディングを変更できない問題を修正しました。

---

### QCCR1139751

ルール・ファイルによって、SNMP トラップ、メール、ページ警告に加えてスクリプト警告を使用できるようになりました。ファイルおよびルール例を使用する方法については、<SiteScope のルート・ディレクトリ>\examples\log\_monitor\sample.rules のルール例ファイルを参照してください。

---

### QCCR1134987

モニタ・プロパティの [**関連する警告の有効化/無効化**] タブに [警告を無期限に無効化] オプションを追加しました。これにより、警告条件が満たされた場合でも特定のモニタおよびグループの警告を無期限に無効化することができます。

---

### QCCR1159371

Ctrl + C ショートカットを使用してダッシュボードおよび[警告]タブの選択した行から詳細をコピーできる機能を追加しました。また、ダッシュボードのテーブルに表示されているすべてのデータを .CSV ファイルにエクスポートできる[CSV へのエクスポート]ボタンをダッシュボード・ツールバーに追加しました。

---

#### QCCR1135444

警告アクションに、生成された警告を送信するタイミングをスケジュールできるスケジュール・オプションを追加しました。

---

#### QCCR1155656

警告レポートの実行時にグループ内のモニタの警告データが取得されない問題を修正しました。レポートには、選択されたオブジェクトをターゲットとする親グループからの警告を含む、すべての警告が含まれるようになりました。

---

## API

---

#### QCCR1139281

特定の基準によるモニタおよびグループの検索をサポートする **SiteScopeSearchCommandLineUtil** API を追加しました。

---

#### QCCR1159983

API 例の Get SiteScope configuration コマンドを実行すると、コンソールにスナップショットが出力されるようになりました。

---

#### QCCR1153981

モニタのタグ値を選択またはクリアするモニタ API 機能を追加しました。

---

#### QCCR1137729

SiteScope API は特定の基準によるグループおよびモニタの検索をサポートします。

---

#### QCCR1168540

キーベースの SSH 認証に使用できる秘密鍵のインポート用に **importSSHKey** API を追加しました。

---

## 監査ログ

---

#### QCCR1140167

インシデントを示す監査ログのエントリに (SiteScope ルートから監査対象エンティティへの) 完全パスを追加しました。たとえば、<SiteScope>\group name\monitor name または <SiteScope>\template container name\template name\group name\monitor name。

---

#### QCCR1157897

追加操作の詳細は監査ログに記録されます。

---

#### **QCCR1159673**

監査ログには、モニタ設定の変更(モニタの作成, 更新, 削除, 移動/コピー)の詳細が記録され、変更前後の値が示されます。

---

#### **QCCR1159720**

監査ログには、[タグの検索/フィルタ]で実行したアクションが記録されます(タグの作成, 削除, 更新)。

---

#### **QCCR1161453**

テンプレート警告を削除すると、警告の完全パスが監査ログに記録されます。

---

#### **QCCR1161297**

バックアップ・ファイルを <SiteScope のルート・ディレクトリ>\persistency\importBackup からインポートすると、監査ログにインポートしたすべてのエンティティの完全パスが記録されます。

---

#### **QCCR1161074**

監査ログには、テンプレート警告およびテンプレート警告アクションの変更が記録され、変更前後の値が示されます。

---

#### **QCCR1159672**

SiteScope オブジェクトにテンプレートの変更が適用されると、監査ログには更新されたオブジェクトが記録されます。ただし、変更前後の値は表示されません。

---

#### **QCCR1159737**

監査ログには、警告アクション(作成, 更新, 削除, コピー)の詳細が記録され、変更前後の値が示されます。

---

#### **QCCR1161452**

モニタを移動すると、モニタの完全パスが監査ログに記録されます。

---

#### **QCCR1159723**

監査ログには、レポートに実行されたアクション(作成, 更新, 削除, コピー)の詳細が記録され、変更前後の値が示されます。

---

#### **QCCR1159741**

モニタ・グループを更新すると、変更前後の値が監査ログに記録されます。

---

#### **QCCR1159739**

監査ログには、手動で実行されるモニタの詳細が記録されます。

---

---

#### QCCR1159738

監査ログには、テンプレートのインポート(ユーザ・インタフェースを使用するか、または <SiteScope の ルート・ディレクトリ>\persistence\import フォルダにファイルを置くこと)の詳細が記録されます。

---

#### QCCR1153646

監査ログには、モニタおよび警告が有効化/無効化された詳細な時間が記録され、しきい値変更の情報が記載されます。

---

#### QCCR1153091

監査ログには、SiteScope 警告に行った変更が詳細に記録され(警告作成、更新、削除、コピー/切り取り貼り付け、関連付けられた警告の有効化/無効化)、変更前後の値が示されます。

## 設定

---

#### QCCR1135859

すべての新規モニタの標準設定モニタ実行頻度を設定できる機能を追加しました(モニタ・インスタンスの頻度値を別々に手動で設定していない場合が対象)。グローバル頻度値は、[プリファレンス] > [インフラストラクチャプリファレンス] > [モニタ設定]の[新しいモニタの標準設定頻度(秒)]で設定します。標準設定値は600秒(10分)です。

---

#### QCCR1149412

[スケジュールの編集]ページに、警告アクションやモニタなどのスケジュール関連エンティティを表示する新しい[関連エンティティ]パネルを追加しました。たとえば、モニタ・スケジュールを編集して、該当するスケジュールの下で実行されているモニタを表示する場合に有効です。

---

#### QCCR1142189

以下によって、テンプレートを作成しさまざまなサーバにデプロイする際に、テンプレート変更の公開後にモニタ依存関係が削除されるという問題を修正しました。

- テンプレート・モニタまたはモニタ・グループからの依存関係があるモニタに完全パスまたは相対パスを提供しなければならない。
  - 変更の公開時に現在のモニタまたはモニタ・グループの依存関係を上書きするかどうか選択できる。
- 

#### QCCR1159970

設定ツールで証明書ディレクトリをエクスポートする機能、および信頼済み証明書を圧縮データから標準設定のSiteScope キースタア・ファイルにインポートする機能を追加しました。

## ダッシュボード

---

#### QCCR1145254

SiteScope ダッシュボードに表示できる利用可能なカラムのリストに[タグ]を追加しました。タグは優先度に応じたモニタのソートに使用できます。

---

#### QCCR1147686

ダッシュボードの行の高さを自動調整してすべてのセルの内容が見えるようにできる[折り返しテキスト]オプションをダッシュボード設定に追加しました。

## ドキュメント

---

#### QCCR1168015

『SiteScope デプロイメント・ガイド』の「SSL を使用するための SiteScope の設定」の章の情報およびフローを更新しました。

## フィルタ

---

#### QCCR1149240

次のフィルタ演算子を[フィルタ タグ]ダイアログ・ボックスに追加してタグのツリー・フィルタを改善しました。

- **and** :すべてのタグが選択されているすべてのオブジェクトを表示します。
  - **or** :少なくとも1つのタグが選択されているすべてのオブジェクトを表示します。
- 

#### QCCR1162464

関連する警告のステータスによってモニタ・ツリーをフィルタする機能が追加されました(有効/無効)。

## インストールとアップグレード

---

#### QCCR1141359

設定ツールによって証明書ディレクトリをエクスポートしたり、圧縮データの信頼済み証明書を標準設定の SiteScope キースタア・ファイルにインポートする機能を追加することで、アップグレード後に前のインストール・ディレクトリを指している SSH キーの問題([リモート サーバ] > [Windows リモート サーバ] > [詳細設定] > [SSH 接続の鍵ファイル])を修正しました。

## モニタ

---

#### QCCR1160947

**CPU モニタ** :<DiagnosticText> アラート・タグで送信されたテキストでは、Windows プロセスはプロセス名ではなく%CPU でソートされます(最も%CPU の高いものが一番上)。

---

#### QCCR1164159

**データベース・クエリ・モニタ**:[プリファレンス] > [インフラストラクチャプリファレンス] > [モニタ設定]の [DB 最大カラム数], [DB 最大行数], [DB 値の最大長]の設定を変更することで(または <SiteScope のルート>/groups/master.config ファイルの `_databaseMaxColumns=`, `_databaseMaxRows=`, `_databaseMaxSummary=`のプロパティを使用することで), SiteScope ダッシュボードのデータベース・クエリ・モニタで表示可能なカラム数, 行数, 文字数を設定できる機能が追加されました。標準設定では最大カラム数は 10, 最大行数は 1, 値の最大長は 200 文字です。

---

#### QCCR1160136

**ディスク領域およびダイナミック・ディスク・スペース・モニタ**:これらのモニタの分数しきい値設定のサポートを追加しました。大容量のディスク(1 TB 以上など)を監視する際は整数しきい値の設定よりも便利です。

---

#### QCCR1144024

**ログ・ファイル・モニタ**:ログ・ファイル・モニタ設定にタイムアウト機能を追加しました。

---

#### QCCR1140747

**ログ・ファイル・モニタ**:内容照合が英語以外の文字列である場合に, モニタの SSH v2 経由で [サーバサイド プロセス]を選択した状態のログ・ファイル・モニタを使用する際に失敗する問題を修正しました(モニタは UNIX リモート・サーバのエンコーディングを無視)。

---

#### QCCR1145373

**JMX モニタ**:JMX モニタ上で Sun Glassfish Enterprise サーバ 2.1 および 3.1 を監視できるようサポートを追加しました。

---

#### QCCR1155819

**Microsoft Windows イベント・ログ・モニタ**:統計情報収集の方法として WMI のサポートを追加しました。

---

#### QCCR1158573

**Oracle データベース**:Oracle データベース・モニタおよびソリューション・テンプレートに Oracle データベース 11g のサポートを追加しました。

---

#### QCCR1146019

**SAP Java Web アプリケーション・サーバ・モニタ**:このモニタは SSL トラnsポート・レイヤ経由での P4 監視をサポートしています。セキュア接続を使用した P4 ポートの監視を有効化するには, 次の手順を実行します。

1. SAP マシンの `the usr\sap\<インスタンス名>\SYS\global\security\lib\tools` ディレクトリから <SiteScope のルート・ディレクトリ>`\javallib\ext` ディレクトリに `jar` ファイルをコピーします。
2. SiteScope で, SAP Java Web アプリケーション・サーバ・モニタを作成し, [モニタ設定] ペインで次の設定を行います。
  - **ポート**:SSL 接続で P4 を許可するポート番号を入力します。J2EE ポート要件の詳細については, [http://help.sap.com/saphelp\\_](http://help.sap.com/saphelp_)

[nw04/helpdata/en/a2/f9d7fed2adc340ab462ae159d19509/frameset.htm](http://nw04/helpdata/en/a2/f9d7fed2adc340ab462ae159d19509/frameset.htm)(英語 サイト)にアクセスしてください。

- **トランスポート レイヤ**:[SSL]を選択します。

---

#### QCCR1165075

**Solaris ゾーン・モニタ**:カウンタ値が小数点ではなくカンマで表示され、一部の Solaris ゾーン・カウンタに不正な倍率が使用される問題を修正しました。

---

#### QCCR1145364

**URL シーケンス・モニタ**:URL シーケンス・ステップ結果に各ステップの合計応答時間を追加しました。

---

#### QCCR1159450

SNMP V3 をサポートしているモニタに対する AES 暗号化のサポートを追加しました。

---

#### QCCR1160010

SNMP v3 のサポートを SNMP トラップ・モニタに追加しました。

---

#### QCCR1135739

SiteScope は複数のインタフェース上で SNMP トラップをリッスンすることができます。

---

#### QCCR1137429

[プリファレンス] > [インフラストラクチャ プリファレンス] > [一般設定]に[タイムアウト プロキシ クエリ ドライバリスト]フィールドを追加しました。これにより、タイムアウトの問題のあるデータベース・ドライバを特定できるようになります(これらのドライバによって処理されたデータベース・クエリは、モニタの[クエリタイムアウト]フィールドに指定されているタイムアウトを超えています)。これらのドライバは、モニタに基づくタイムアウトを使用して個別にクエリされます。

---

#### QCCR1158798

**SNMP 監視**: SiteScope SNMP バージョン 3 監視での AES 128 ビット、192 ビット、256 ビット暗号化のサポートを追加しました。

---

#### QCCR1152510

iiops および t3s プロトコルで SSL 接続により JMX モニタを使用して WebLogic サーバを監視できる機能を実装しました。

## リモート・サーバ

---

#### QCCR1157899

[リモート サーバのプロパティ]ページに[詳細]列を追加しました。

## レポート

---

### QCCR1145251

[新規 SiteScope モニタレポート] ダイアログ・ボックスで無効化 モニタによるモニタ・レポートのソート機能を追加しました。

---

### QCCR1130696

Internet Explorer ブラウザを使用してモニタ・サマリ・レポートを作成し、エクスポート設定で[ファイルにエクスポート]と[カンマ区切り(csv)]を選択している場合、[レポートの生成]をクリックすると認証ポップアップ・ウィンドウが表示される(QCCR1130696)

---

### QCCR1165779

カウンタ順序が変更された、またはカウンタが参照可能なモニタ用に追加された場合に SiteScope レポートに不正な値が表示される問題を修正しました。

---

## SiteScope 状況

---

### QCCR1150190

SiteScope サーバの SiteScope ライセンス・ポイントの可用性および使用状況を確認できるライセンス使用状況モニタを追加しました。

---

## テンプレート

---

### QCCR1139329

モニタをテンプレート間でコピーまたは移動すると、モニタ内のユーザ定義変数もコピーまたは移動されます。

---

### QCCR1139332

割り当てたテンプレート変数の名前を変更する機能を追加しました。この変数を使用するすべてのモニタは自動的に新しい変数名を使用するよう更新されます。

---

### QCCR1136535

テンプレートでモニタおよびグループの依存関係を設定する際に、ツリー構造を再作成するのではなくツリーの既存モニタへの完全パスまたは相対パスを提供できる機能を追加しました。これによってユーザが手動で操作しなくても、テンプレートがグループやモニタをツリーの正しい位置に自動的に書き込んだり、依存関係をいくつでも自動的に作成したりできるようになります。

---

---

## 修正済みの問題

問題および制限事項は変更要求番号 (QCCRxxxxxxx) で識別されます。HP ソフトウェア・サポート Web サイトで問題についての詳細を確認する際、または HP サポートの担当者に連絡する際にこの番号を使用します。

本項に記載している制限事項について最新情報を確認する場合、または特定の製品やバージョンの既知の問題のリスト全体を見る場合は、HP ソフトウェア・サポート Web サイトで[セルフソルブ]タブをクリックし、[関連する下位製品を含める]を選択してから製品、バージョン、オペレーティング・システムを選択し、[ドキュメントのタイプ]のエリアから[既知の問題]のみを選択して[検索]をクリックします。また、[セルフソルブ]ページ上部のキーワード・ボックスを使用して特定の CR を検索することもできます。

## 警告

---

警告テーブルを選択していないときに SiteScope 管理レポートによって警告が送信される (QCCR1162836)

---

ホストが SiteScope サーバでない場合、スクリプト警告で SSH 接続を使用して Windows リモート・サーバのスクリプトの一覧を取得できない (QCCR1164681)

## グローバル検索と置換

---

[グローバル検索と置換]を使用して SNMP トラップ警告アクションに変更を行うことができない (QCCR1168699)

## インストールとアップグレード

---

グラフィック・ユーザ・インタフェース・ウィザードを使用している場合、Linux 64 ビット環境で SiteScope インストーラが機能しないことがある (QCCR1143277)

---

JRE 5.x を使用する Firefox 3.0 で SiteScope のダイアログ・ボックスを開くと、Java スクリプト検証エラーが発生する。SiteScope 11.x では JRE 6.x を使用しているため、この現象は改善されました (QCCR1120599, QCCR1122818, QCCR1124623)

---

SiteScope を AutoRun からインストールすると、64 ビットのインストールが選択されていても SiteScope 32 ビット・バージョンがインストールされる (QCCR1159865)

---

SiteScope を UNIX にインストールしているときに HP Operations Agent をインストールする場合、エージェントがすでにインストールされているとインストールがリソングする場合があります (QCCR1151731)

---

HP Operations Agent を含む SiteScope を前にエージェントがインストールされていた UNIX 環境 (アンインストール済みであっても) にインストールすると、新しくインストールしたエージェントが BSM で HPOM またはオペレーション管理に接続できない (QCCR1147566)

## 統合 - BSM

---

SiteScope を BSM と統合していると SiteScope サービスの起動に時間がかかる場合がある (QCCR1165285)

## 統合 - トポロジ

---

templates.wSDL ディレクトリにある WSDL ファイルを使用する Web サービス・モニタについてトポロジがレポートされない (QCCR1157645)

## 統合 - OM

---

HP Operations Agent マシンのロケールが HPOM 管理/BSM ゲートウェイ・サーバ・マシンと同じ場合のみ、英語以外の文字は HPOM/OMi で正しく表示される。それ以外の場合は、SiteScope インスタンス名の文字が文字化けする (モニタ、グループ、警告など) (QCCR1143630)

重大度が異なっても、SiteScope から HPOM に転送される (同じカウンタ上の) すべてのイベントが (カウンタの) 最初のイベントの重複とマークされる。[プリファレンス] > [共通イベント マッピング] > [標準設定] > [標準設定 モニタ イベント マッピングの編集] で [キー] フィールドに「:<severity>」を追加することで修正された (QCCR1164072)

ホスト・ベースのモニタの場合、SiteScope がホスト名 メトリックを Operation Manager に報告しない問題を修正しました (QCCR1169226)

## モニタ

---

URL 内容モニタにすべてのカウンタが表示されない (QCCR120981)

「エラー - モニタ : ログ・イベント・チェック, エラー : java.lang.ArrayIndexOutOfBoundsException:100」メッセージ (状況モニタ) (QCCR1160914)

MIB による SNMP モニタを設定して F5 Big-IP ロード・バランサを監視すると「サーバにカウンタが見つかりません」というエラーが発生する (QCCR1140305)

一致がない場合、または [内容の照合] フィールドが入力されていない場合に、データベース・クエリ・モニタに前の実行の内容の照合値が表示される (QCCR1161350)

正規表現パーサが <SiteScope のルート・ディレクトリ>\groups\master.config ファイルで設定された SiteScope ロケールを使用しない (QCCR1162722)

コマンドライン API (enable\_monitor.bat) から JMX モニタを無効化できない (QCCR1159403)

Microsoft Windows サービス・ステート・モニタにダッシュボードのヒントやモニタ履歴で実行中のすべてのサービスが表示されない(QCCR1133814)

---

複数の URL モニタ実行時に「応答からのステータス行の解析でエラーが発生しました。「HTTP」で始まる行が見つかりません」が表示される(QCCR1164539)。次のプロパティを <SiteScope のルート・ディレクトリ>\groups\master.config ファイルに追加することで修正された。

- `_defaultHTTPStatusLine=HTTP/1.1 200 OK`
  - `_tagsOfAdditionalContentChecking=<html>,<xml>`
- 

SiteScope 10.1x から 11.10 へのアップグレード後にアクセス拒否エラーが発生しサービス・モニタが失敗する(QCCR1165712)

---

特定の MIB ファイルを使用して MIB による SNMP ツールを実行すると「カウンタが検出されません」エラーが発生する(QCCR1162506)

---

高負荷ネットワーク環境に多数のカウンタを含む Microsoft Windows リソース・モニタを設定する際のデータ不整合。モニタのタイムアウト値(たとえば 300 秒)は、[プリファレンス] > [インフラストラクチャプリファレンス] > [モニタ設定] > [Perfex オプション]で、または `_perfexOptions` 文字列「`-wrmUiTimeout 300`」を <SiteScope のルート・ディレクトリ>\groups\master.config ファイルに追加することで指定できる(QCCR1162947)

---

<SiteScope のルート・ディレクトリ>\templates.applications の `ILO_remote<*>.xml` ファイルが不正な文字で作成されているため、HP iLO モニタが機能しない(QCCR1166211)

---

リモート監視対象サーバが利用できない場合にネットワーク帯域幅モニタからエラーが返されず、SNMP 接続設定のタイムアウトまたは再試行が機能しない(QCCR1162652)

---

F5 Big-IP モニタ:[カウンタの取得]ボタンをクリックするとエラーが発生する(QCCR1155655)

---

SiteScope サービスの再起動後に「ディレクトリが見つかりません」というエラーが表示され、ディレクトリ・モニタが失敗する(QCCR1161149)

---

スクリプト・モニタに、スクリプトの実行にかかった時間のみを表示する「スクリプト実行時間」カウンタを追加しました。モニタ実行、ネットワーク転送、スクリプト実行の準備に必要な時間など、SiteScope サーバ読み込み時間も表示される「往復時間」ではなくこのカウンタをスクリプトのパフォーマンス診断に使用することが望ましい(QCCR1157724)

---

SNMP モニタの[タイムアウト(秒)]および[再試行遅延(秒)]の設定が正しく機能しない(QCCR1169123)

---

SNMP MIBS をコンパイルするために必要なコンパイル・スクリプトが Linux プラットフォームで実行される SiteScope では利用できない(QCCR1159219)

---

Windows Server 2008 でイベント・ログを監視する際に部分的なデータしか取得できない(メッセージ DLL ファイルを読み込めない)という Microsoft Windows イベント・ログ・モニタの問題を修正しました。(QCCR1130719)

---

テクノロジ・データベース統合モニタに[タイムアウト]フィールドを追加することでモニタのデータベース・クエリ・タイムアウトを変更できない問題を修正しました。タイムアウト値は master.config ファイルの \_JDBCQueryTimeoutSec プロパティまたは[カスタム設定]からも設定できます。(QCCR1160956)

---

URL 内容モニタ。モニタから返された一致データを使用してしきい値を設定できない (QCCR1163047)

---

XML モニタは DTD 検証を使用した XML ドキュメントをサポートしない(QCCR1159596)

---

SiteScope がすべての SNMP トラップを正しくデコードできない(QCCR1160481)

---

ネットワーク帯域幅モニタ。モニタの[プロパティ]タブを開くと、RunMonitor.log および error.log にエラー・メッセージが書き込まれる(QCCR1167536)

---

「インページ操作の実行中にエラーが発生しました」というメッセージが表示されサービス・モニタが失敗する(QCCR1168707)

---

vCenter によって正しくない ESX バージョンが返され、VMware ホスト状態モニタに表示される。VMware ホスト状態モニタが(vCenter 経由ではなく)直接 ESX を監視していれば、ESX バージョンは正しい(QCCR1155409)

---

## プリファレンス

---

UNIX テンプレートを SSH 鍵ファイル認証を使用している既存リモート・サーバにデプロイできない (QCCR1159462)

---

## レポート

---

レポートで線グラフを使用すると一部のグラフが抜ける(QCCR1161895)

---

11.x へのアップグレード後、CSV レポートおよび HTML レポートを生成できず、レポート生成時にロケイン・ポップアップが表示される(LDAP が設定されていない場合でも)(QCCR1154898)

---

[エクスポート]オプションを使用して電子メールでサーバ中心のレポートを送信できない。代わりに、レポートを html ファイルとして保存してから手動で送信しなければならない(QCCR1157160)

---

SiteScope ルート以外の複数のオブジェクトを含むグループの管理レポートを作成するときにエラーが発生する(QCCR1165647)

---

## セキュリティ

---

リモート・サーバのパスワードは、空白 (スペース) と以下の特殊文字をサポートしていない: \ " & | > < ^ (QCCR1I40168)

---

master.config の `_authorizedIP` パラメータ (制限付き IP アドレスへのアクセス許可に使用) が機能しない (QCCR1I63917)

---

## ツール

---

ConfigComparisonTool.bat ツールを使用すると java.exe プロセスがインクメモリ使用率が高くなる (QCCR1I57194)

---

## テンプレート

---

SiteScope に多数の設定済みテンプレートが含まれていると [テンプレート] コンテキスト・タブを開けない (QCCR1I65333)

---

テンプレートのリモート・サーバの [メソッド] または [オペレーティング システム] の値に不正な値が含まれていたり、リモート・サーバの設定時にドロップダウン・リストに表示されているものと大文字・小文字の使用が異なる値を入力した場合は、検証が正しく行われず、代わりにドロップダウン・リストの最初の値が挿入される (QCCR1I30780, QCCR1I30872, QCCR1I46299)

---

## ユーザ・インタフェース

---

SiteScope を SiteMinder と統合すると、master.config ファイルの「`_keepAliveFromJSP=`」プロパティを「`=true`」に変更することで、ブラウザが非アクティブになってから 30 分後にユーザが SiteScope からログアウトされないようになります (QCCR1I70103)

---